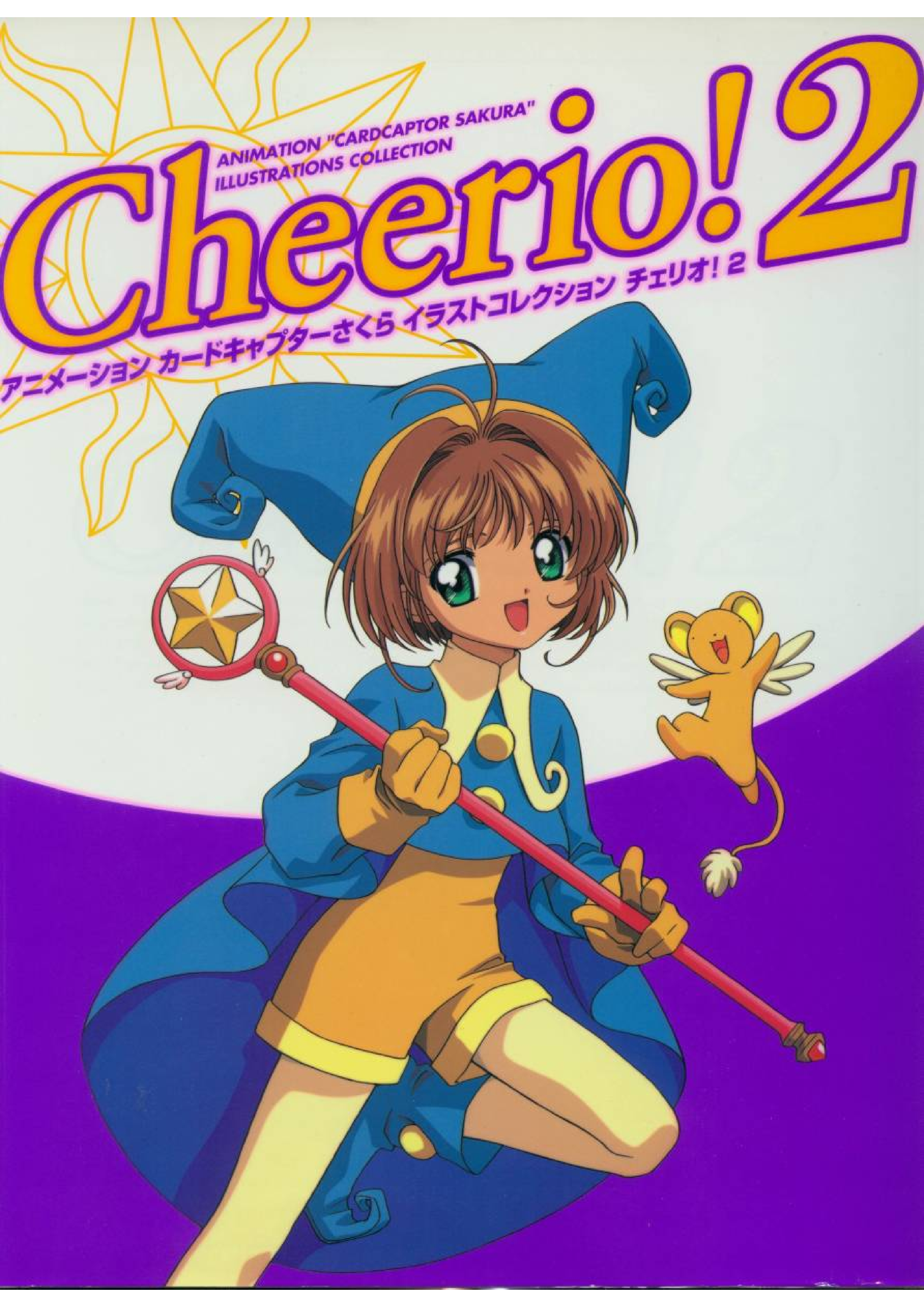
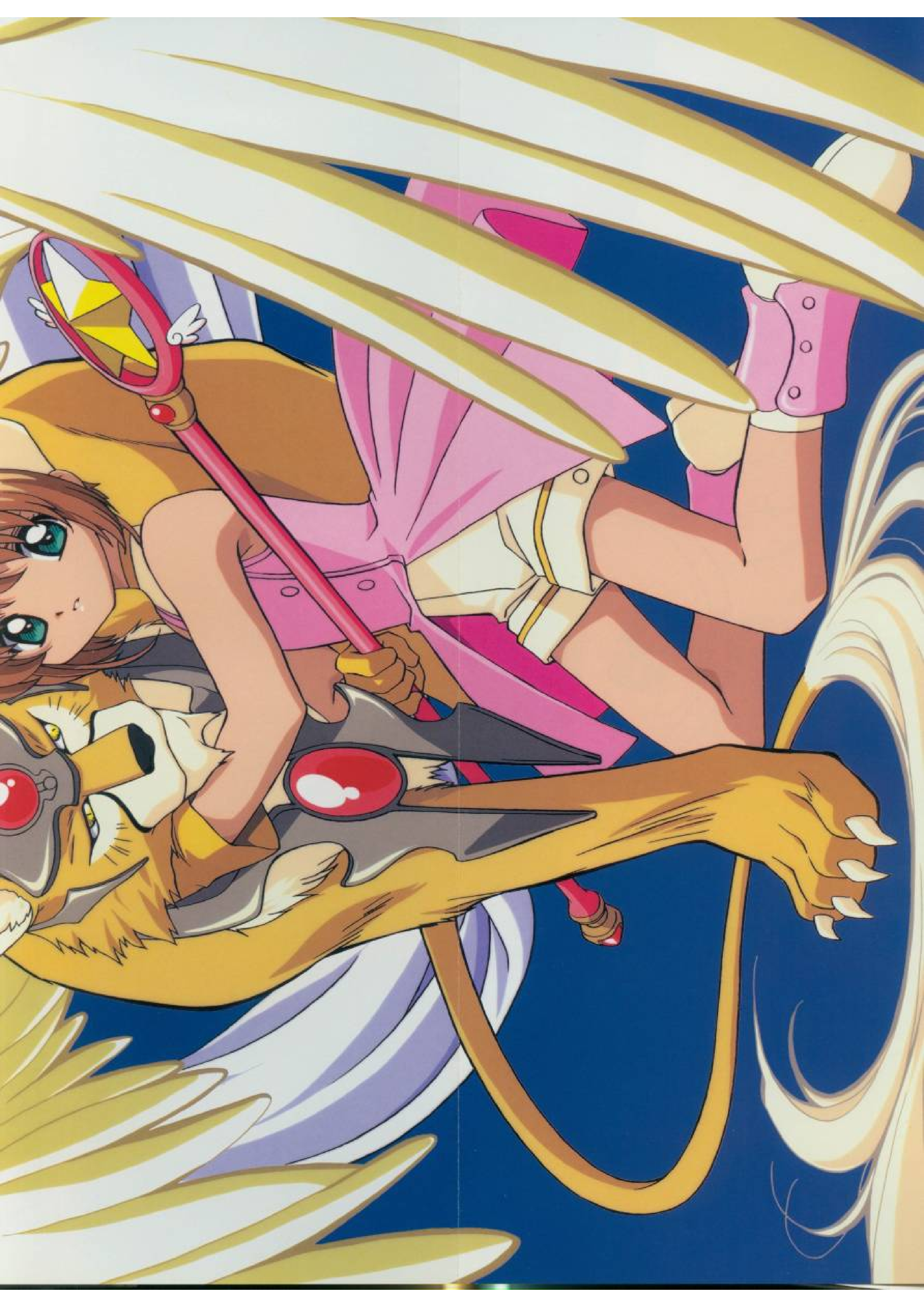

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION
Cheerio! 2
アニメーション カードキャプターさくら イラストコレクション チェリオ! 2

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION

Cheerio! 2

Now - thanks to overwhelming demand for the "CHEERIO!" collection of illustrations from the animation "CARDCAPTOR SAKURA" - a new book is here! Over 80 illustrations carefully selected from the treasure trove of work by the artists involved in the TV Animation "CARDCAPTOR SAKURA" and the Animated Movie "CARDCAPTOR SAKURA". Includes a new special pin-up on the cover page, and the latest interviews with five of the key animation supervisors on the back cover.





ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION

Cheerio! 2

Now - thanks to overwhelming demand for the "CHEERIO!" collection of illustrations from the animation "CARDCAPTOR SAKURA" - a new book is here! Over 80 illustrations carefully selected from the treasure trove of work by the artists involved in the TV Animation "CARDCAPTOR SAKURA" and the Animated Movie "CARDCAPTOR SAKURA". Includes a new special pin-up on the cover page, and the latest interviews with five of the key animation supervisors on the back cover.

Cheerio!2

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA" ILLUSTRATIONS COLLECTION

CONTENTS
目次

ILLUSTRATIONS CHAPTER1

イラストレーションズ チャプター1

テレビアニメ『カードキャプターさくら』のスタッフによるイラストの中から，前作「チェリオ！」発売以降に発表されたものを中心に収録しました。

A collection of illustrations by artists involved in the TV Animation "CARDCAPTOR SAKURA" with a focus on material released after the previous book "CHEERIO!".






























SONG









































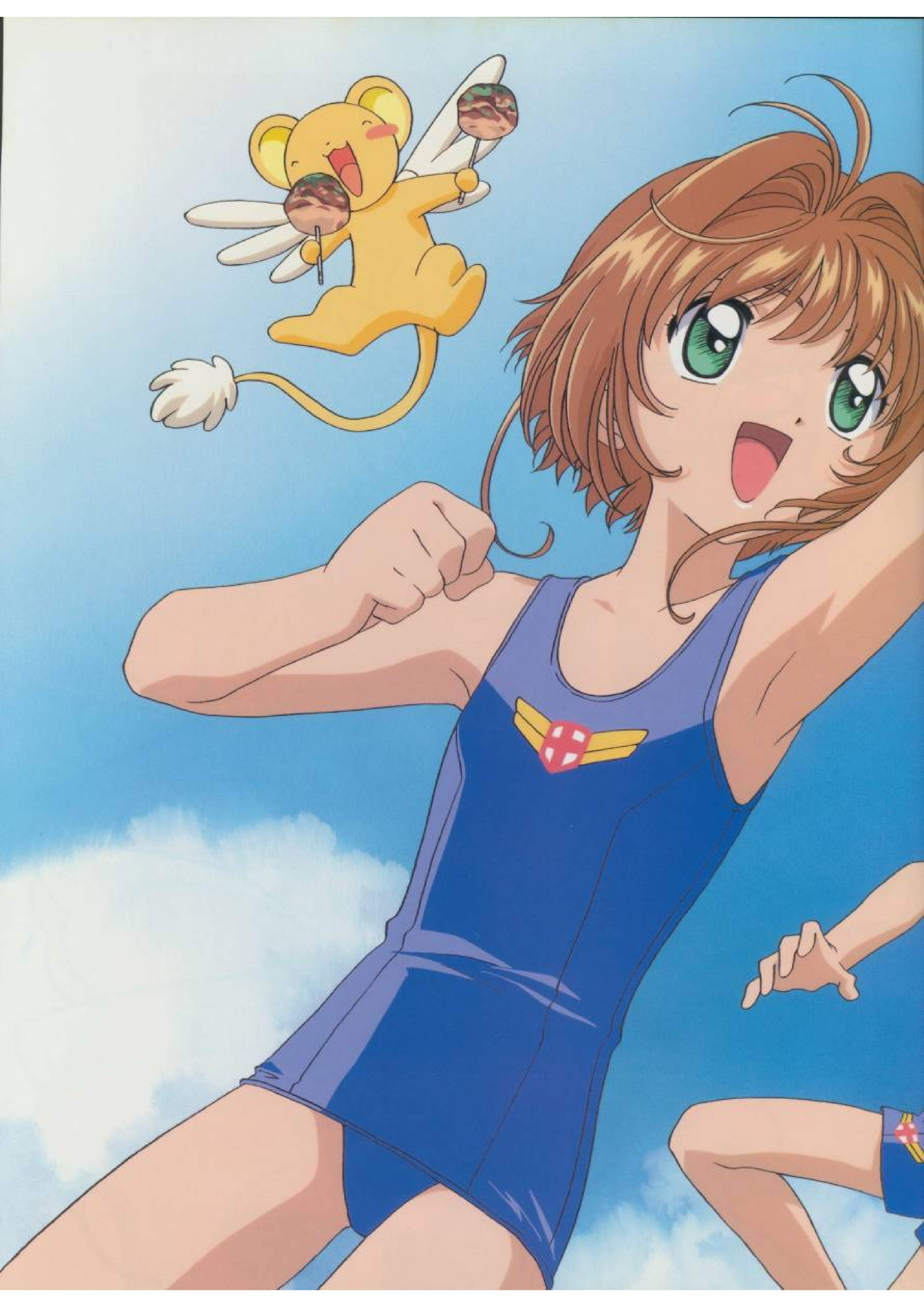


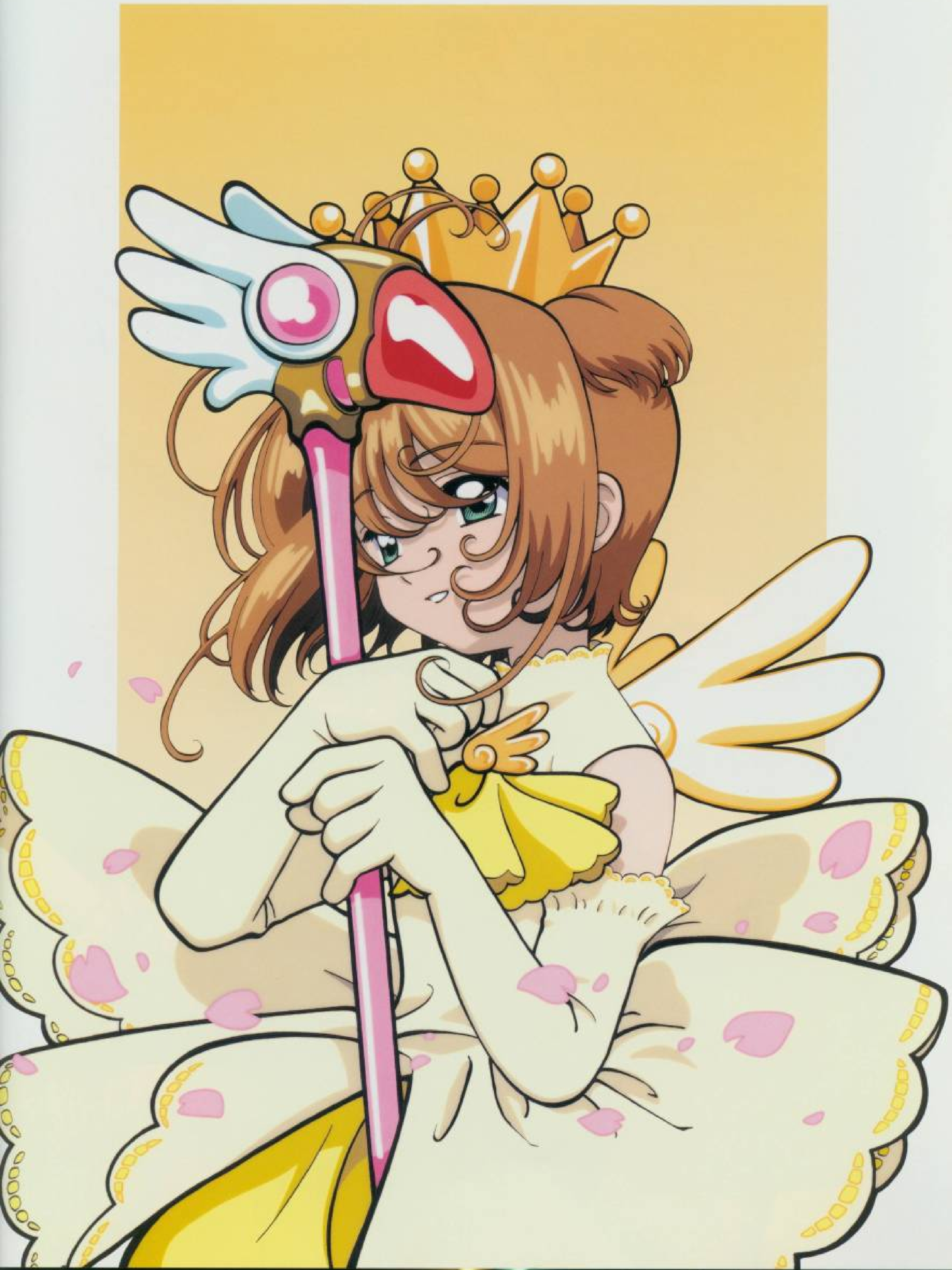




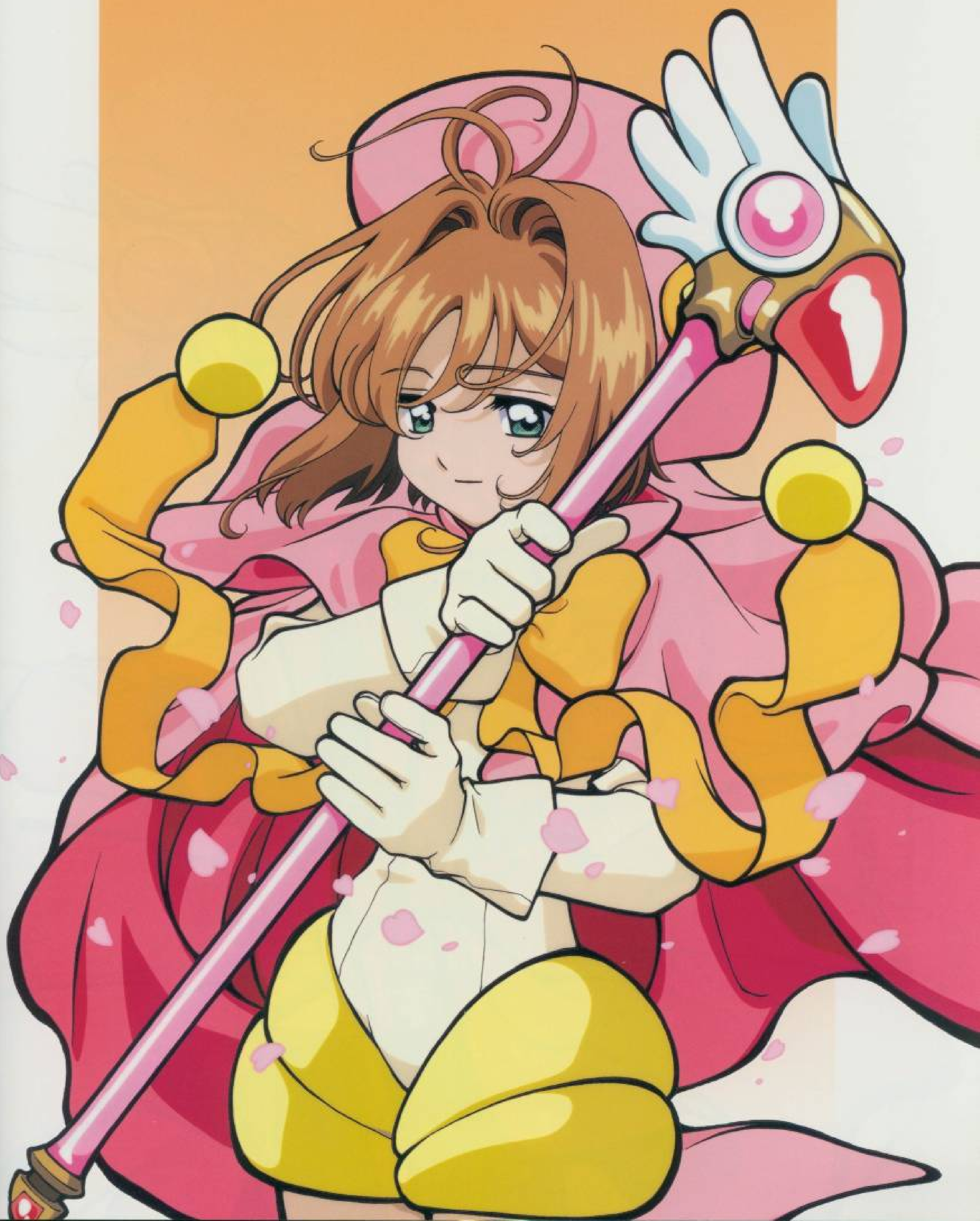


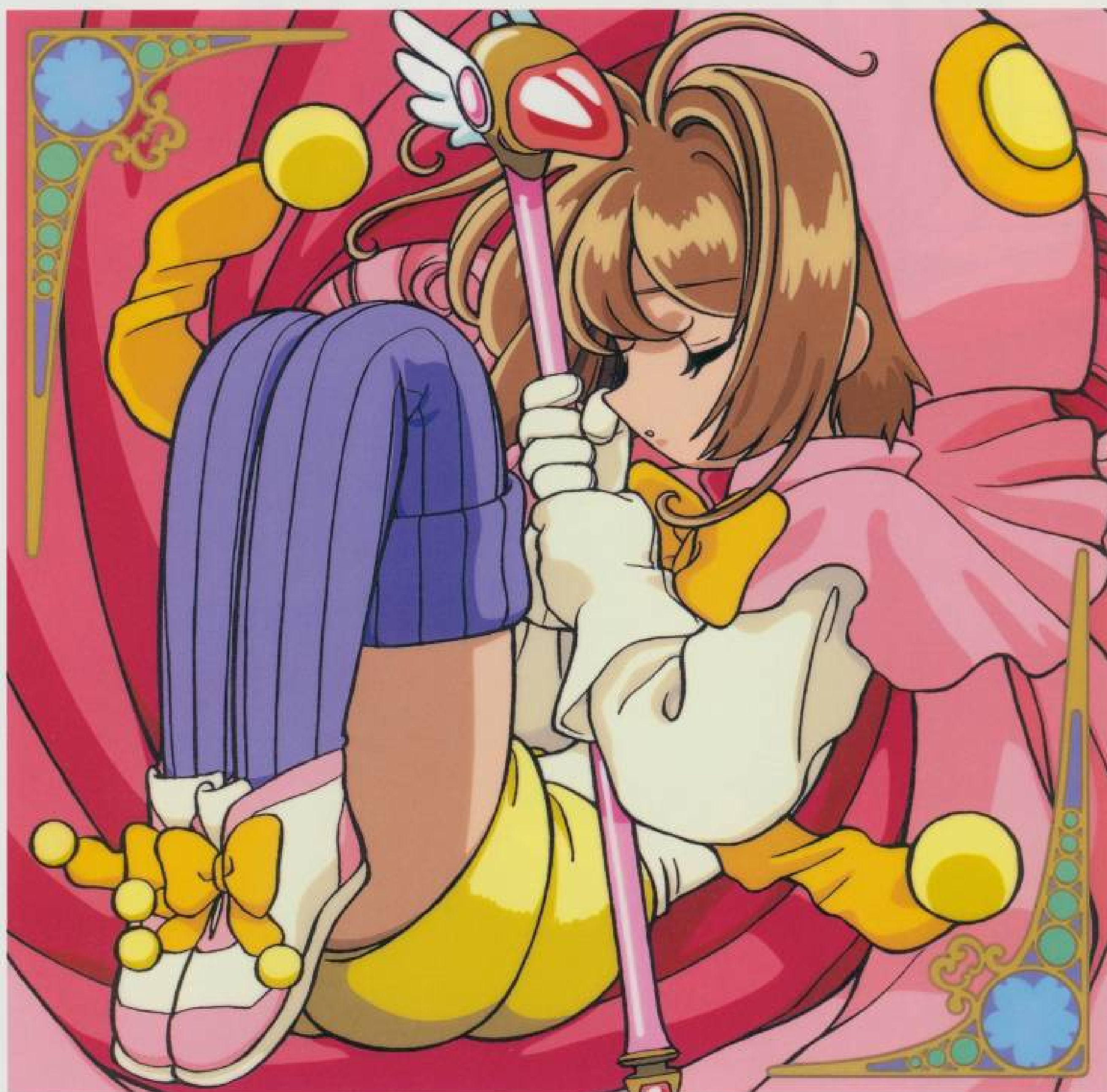


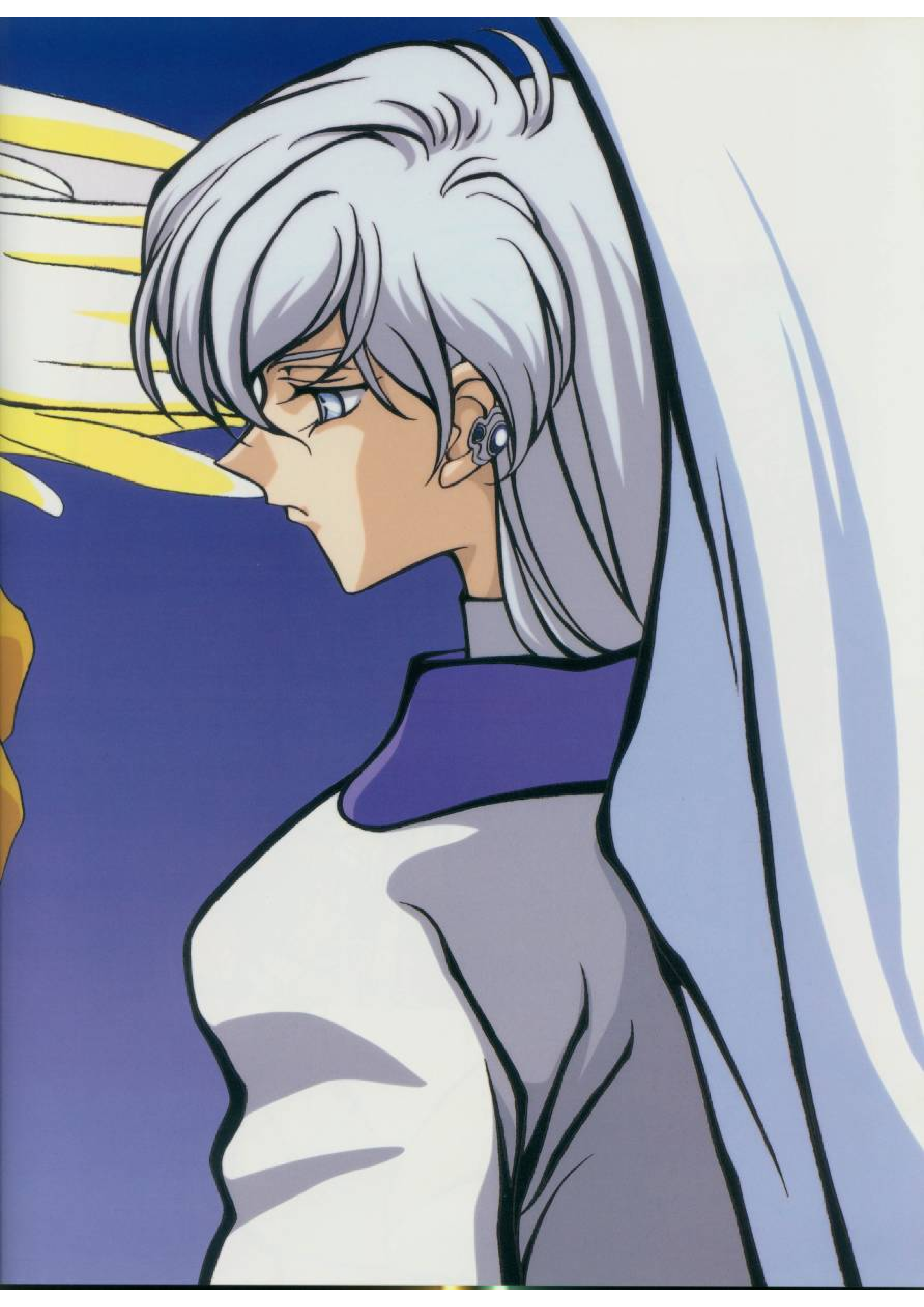




























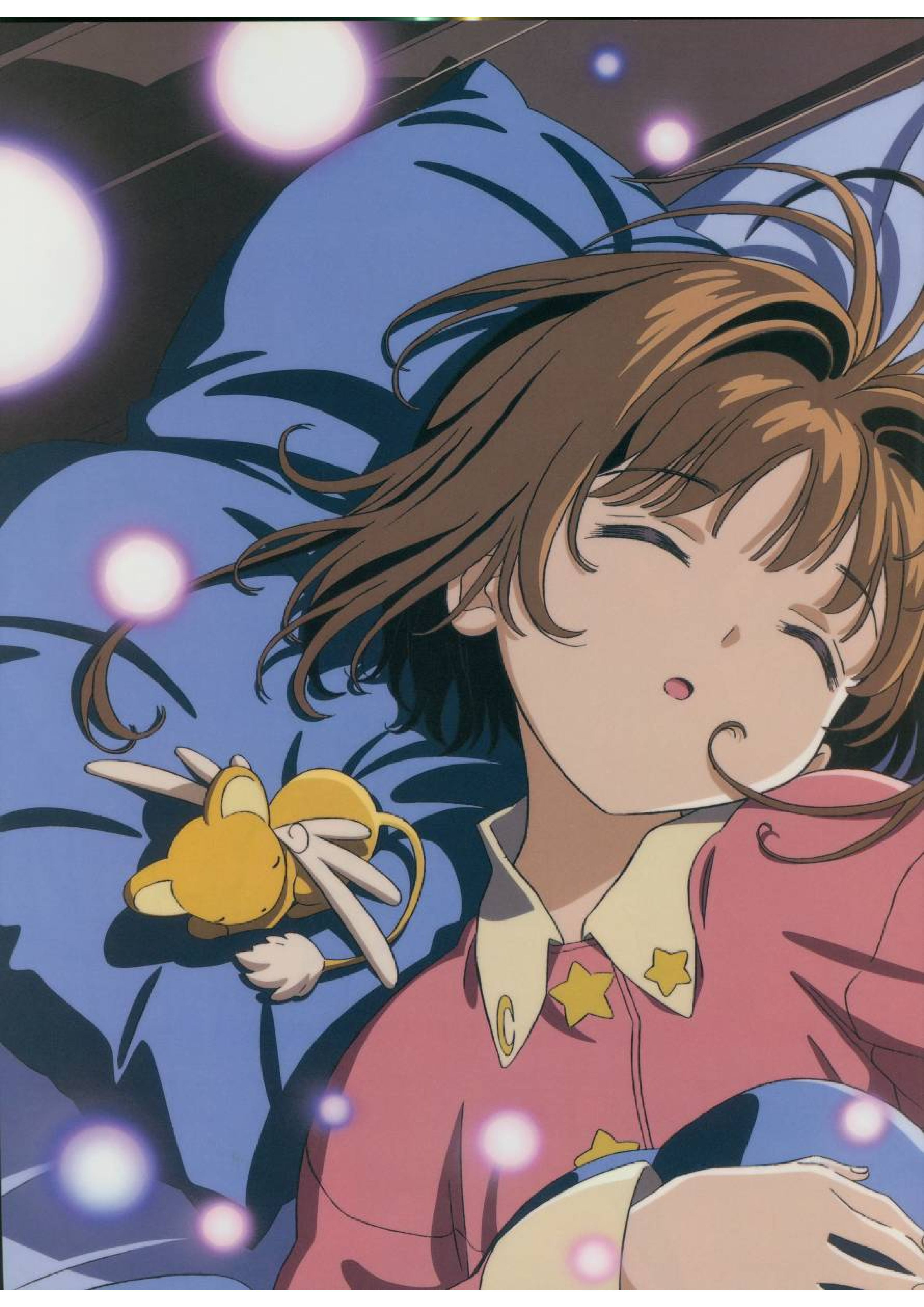
ILLUSTRATIONS CHAPTER2

イラストレーションズ チャプター2

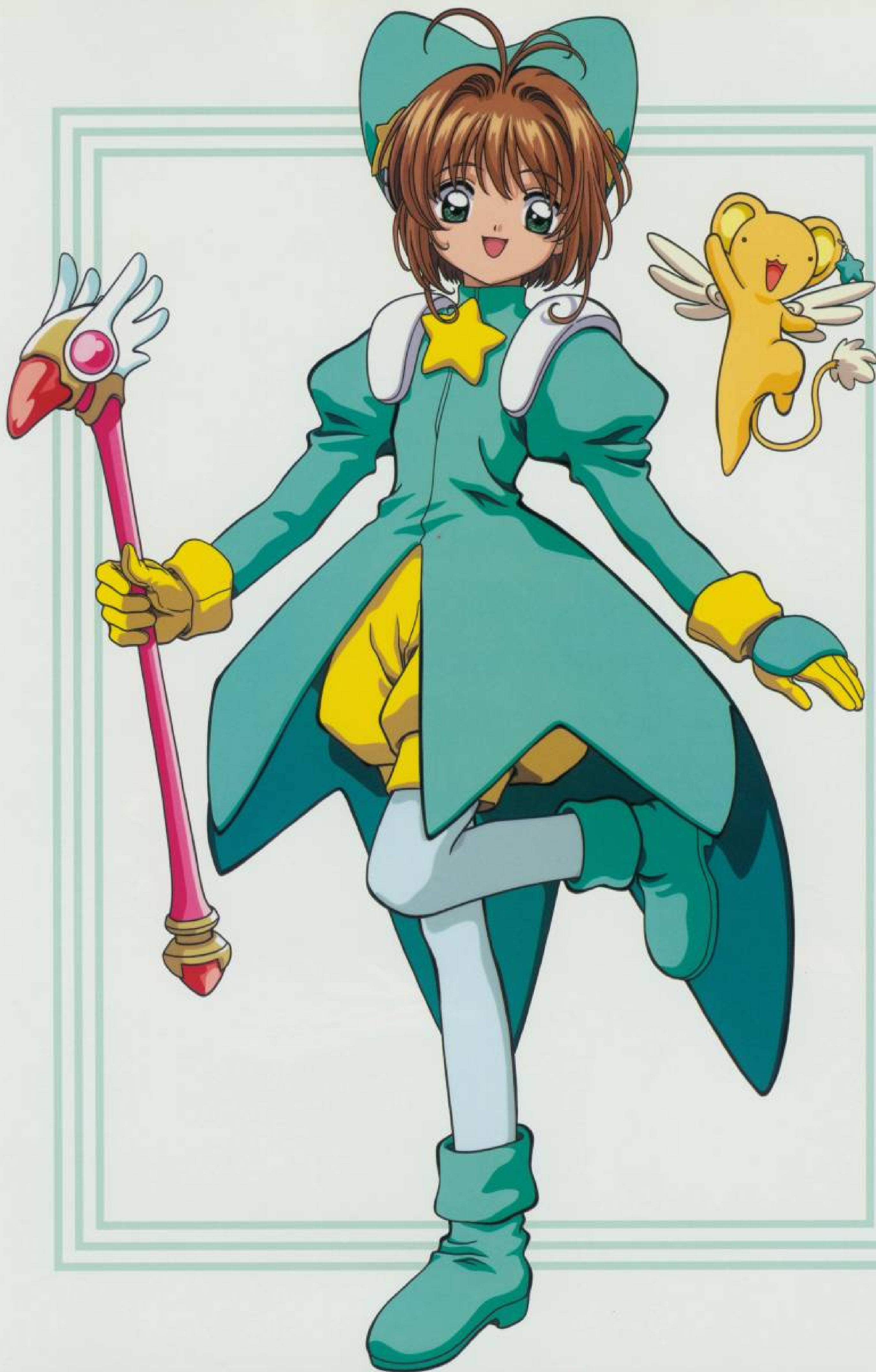
劇場版『カードキャプターさくら』（1999年8月公開）のスタッフが，
アニメ誌や宣伝媒体用に描いたほぼすべてのイラストを収録しました。

A collection covering almost all the illustrations by artists involved in the Animated Movie "CARDCAPTOR SAKURA" for use in animation magazines and media advertising.


THE CLOW
THE CLOW





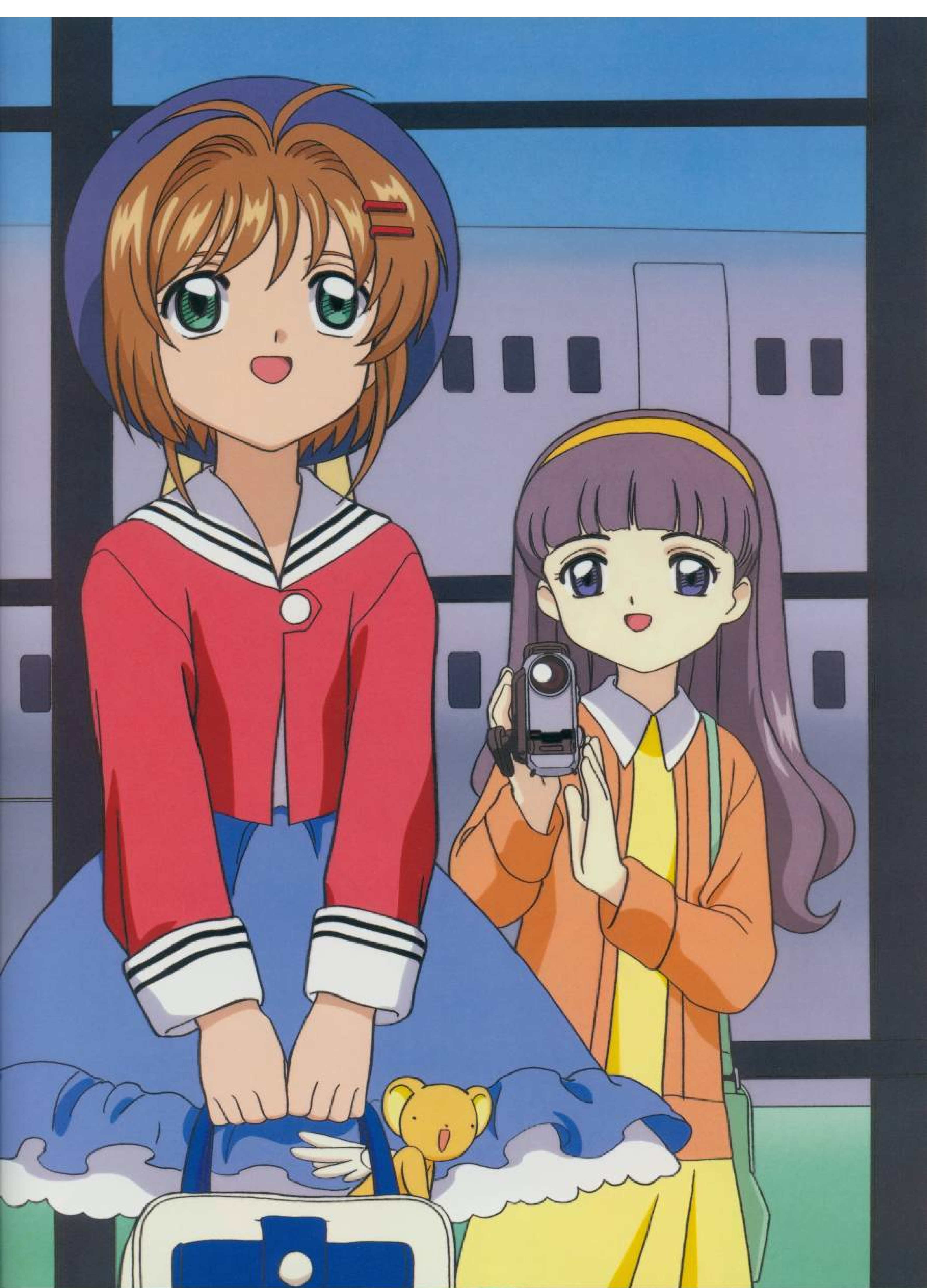






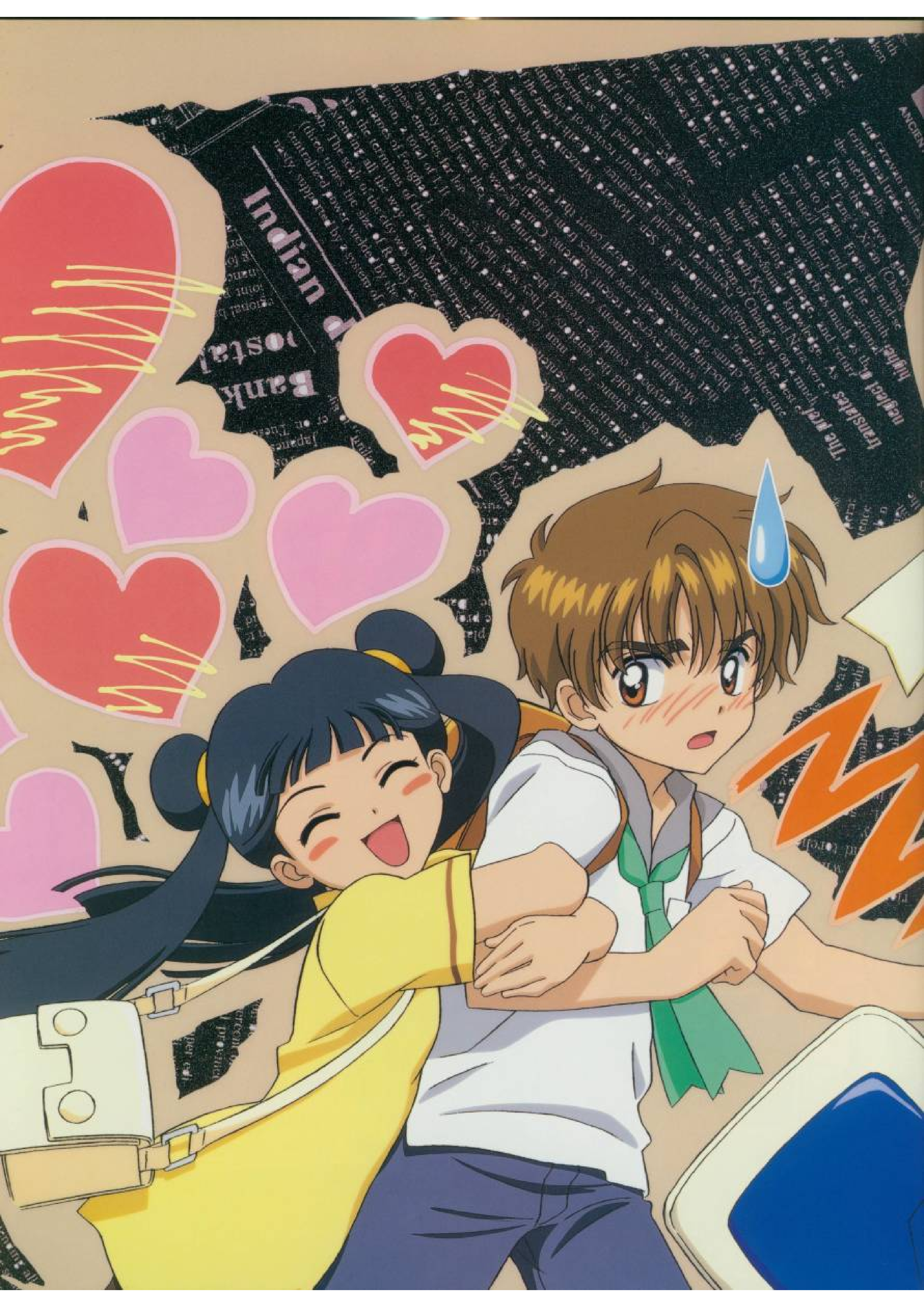






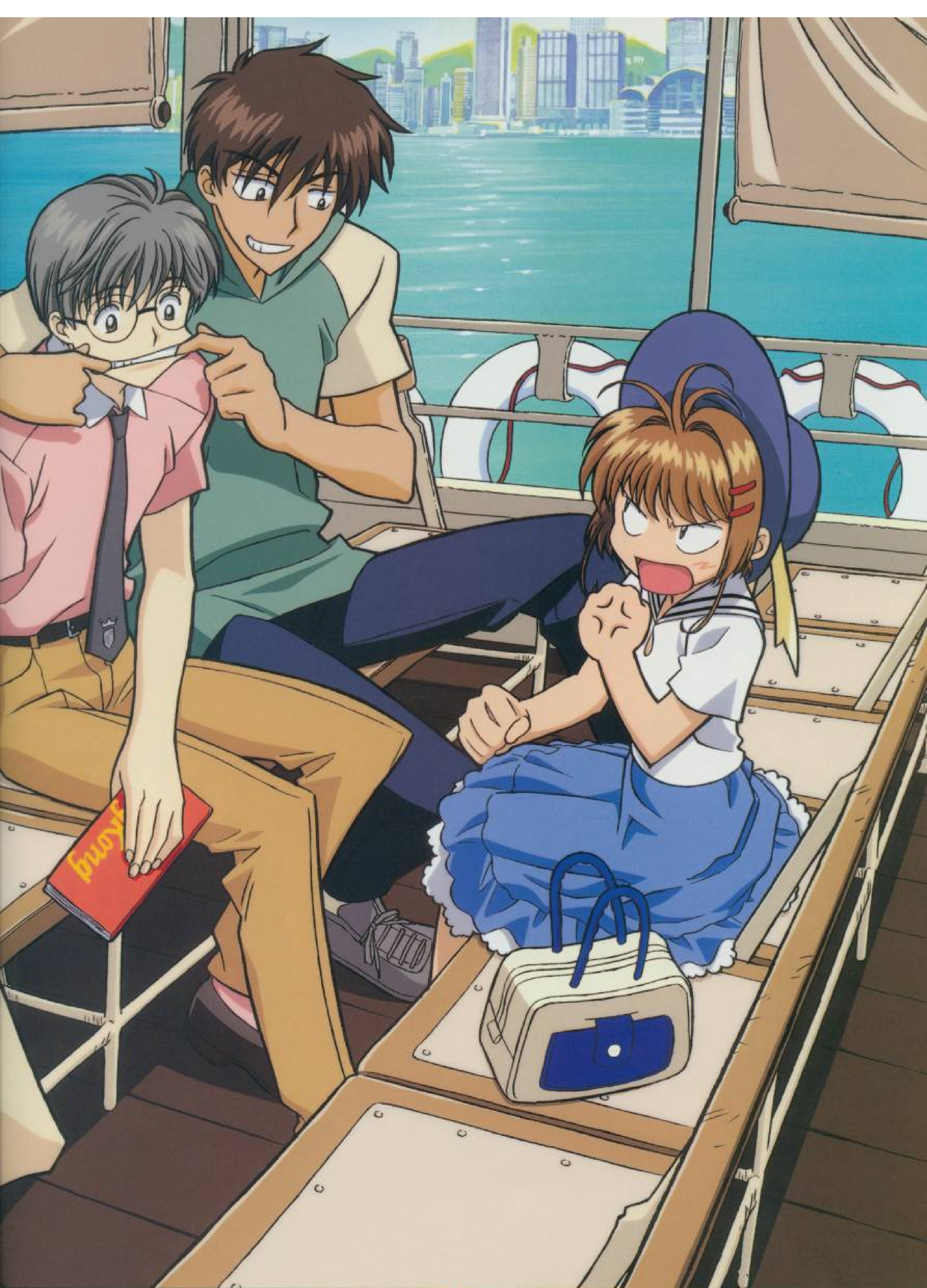


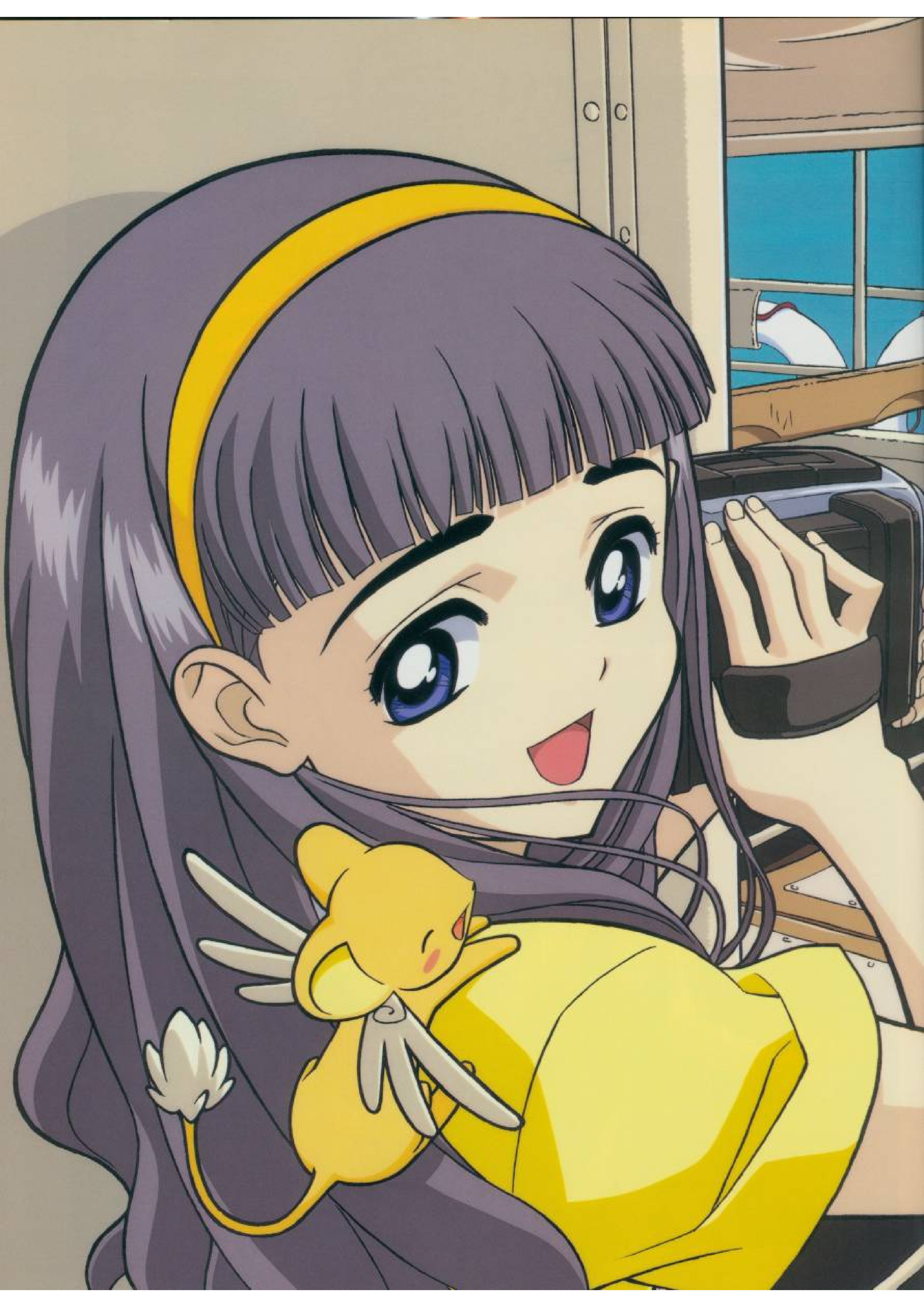





中南
記 小
ICE CREAM

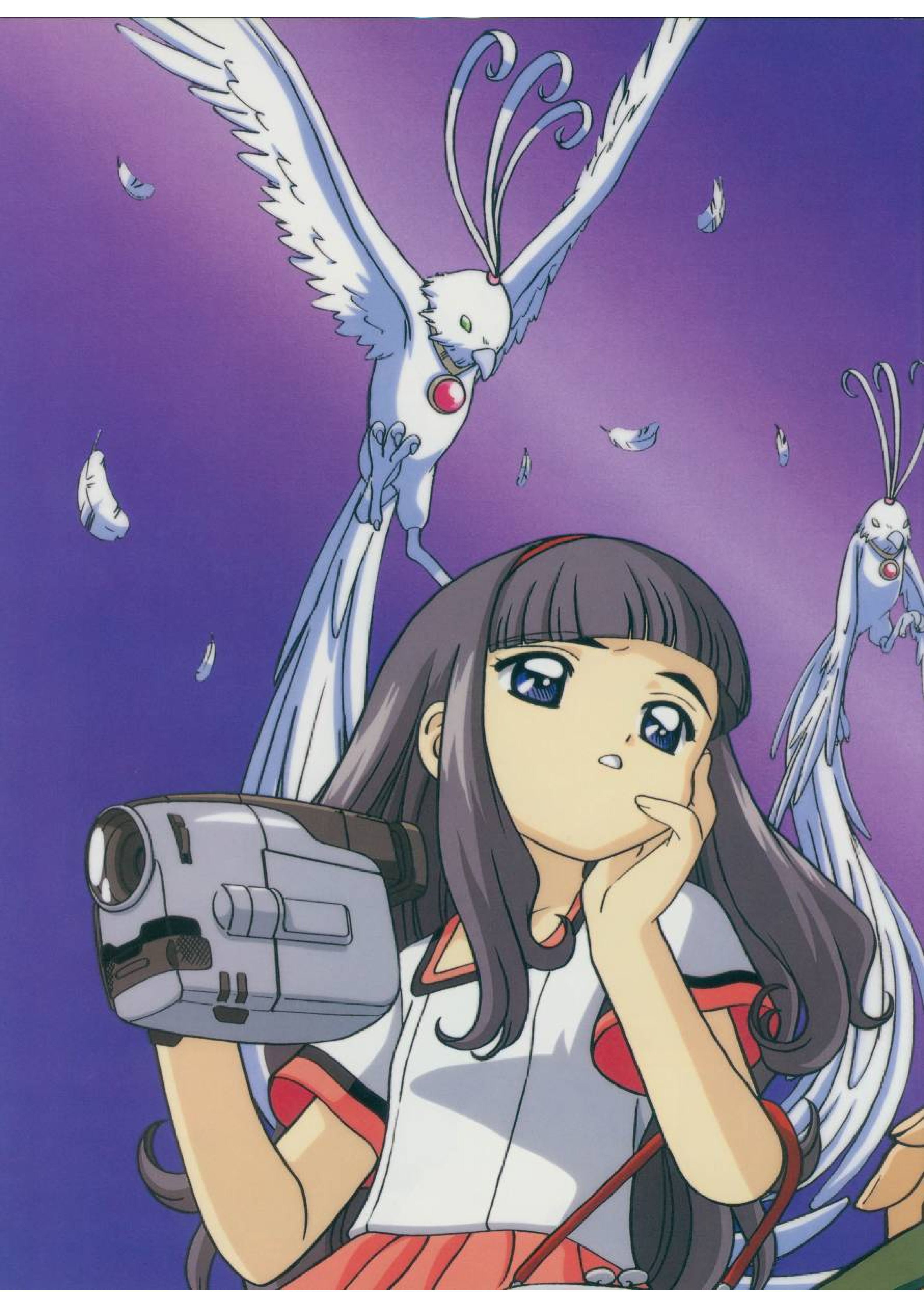

金
子廣場
黄金
OK












影器材行
CO.
: 25386-59G











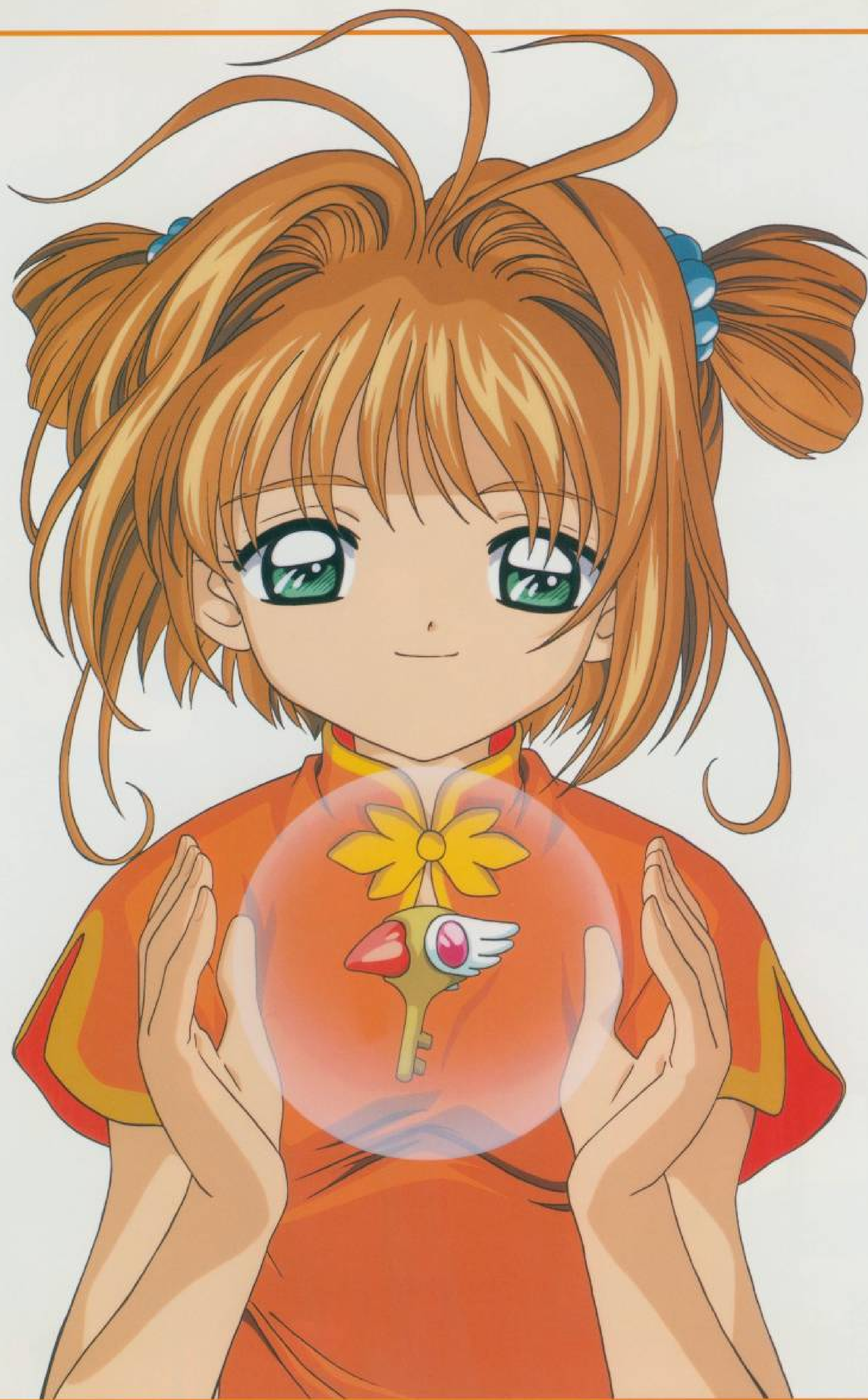








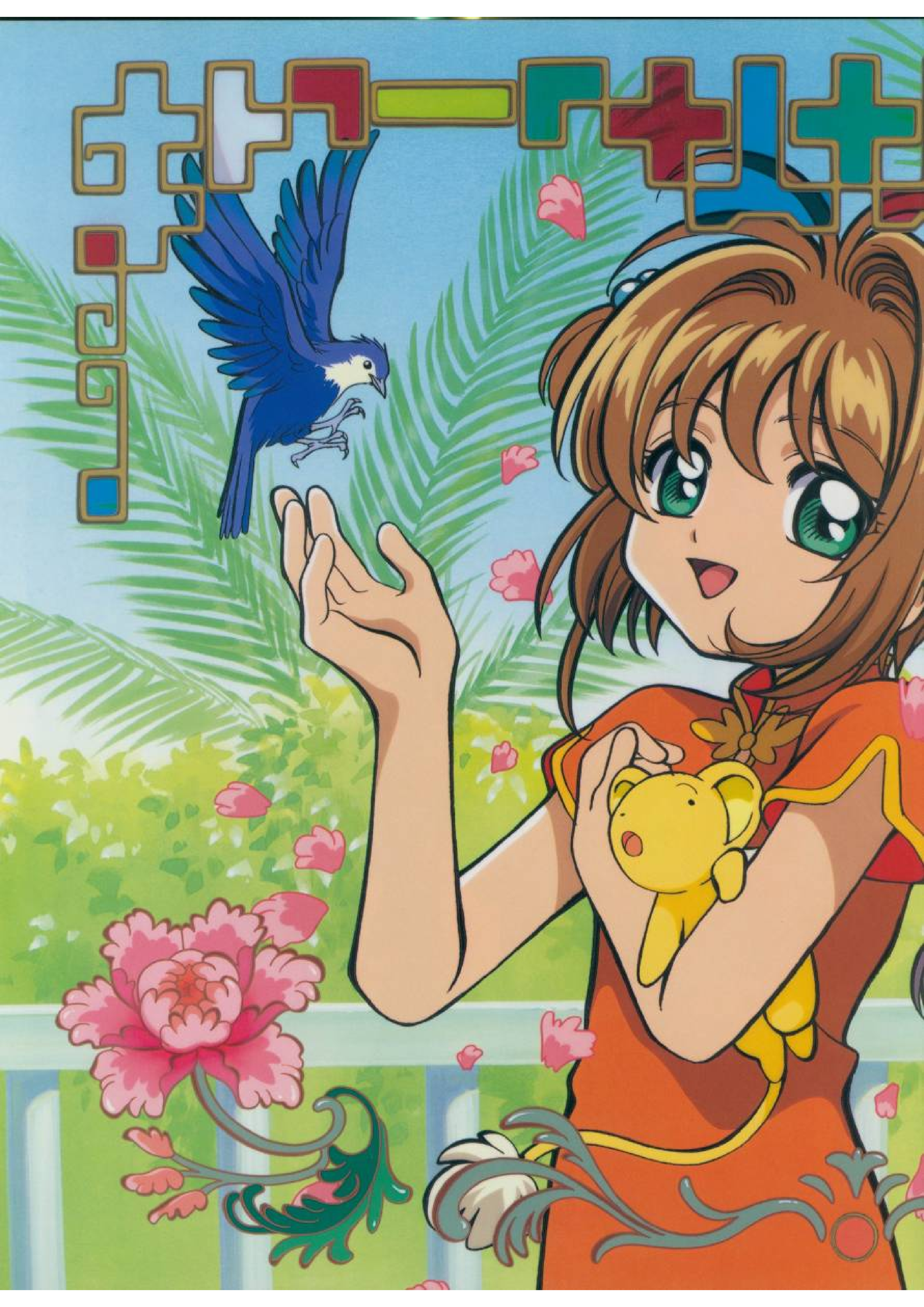




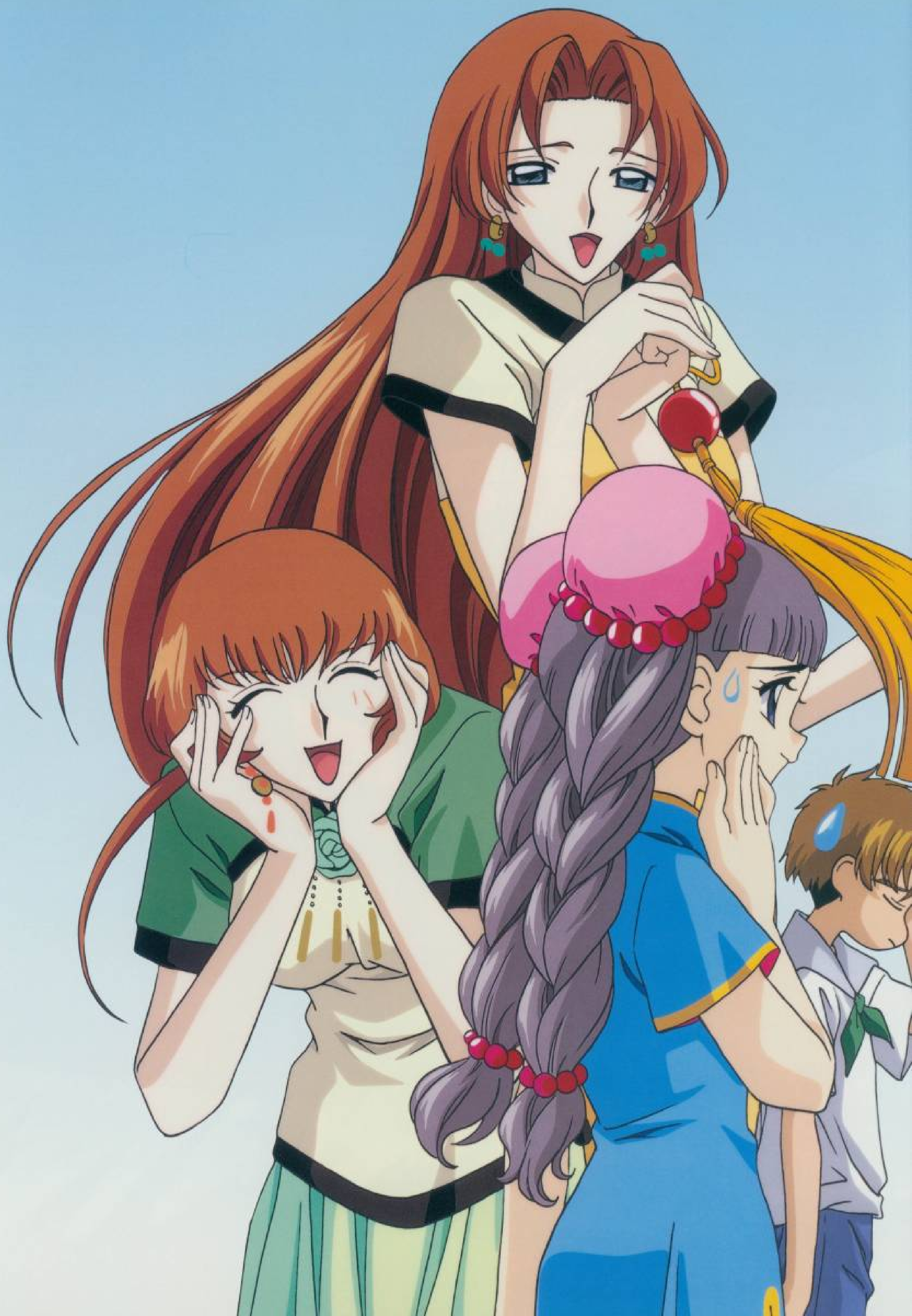


























EXPLANATORY NOTE

初出データ&スタッフリスト

本書に収録されているすべてのイラストの初出データ（媒体名,用途,発売日など）と
制作スタッフ（作画,色指定,彩色,背景など）の一覧です。

A list of data (media, format, release dates etc.)
for all the illustrations in this book,
published for the first time and including
information on the creators.

EXPLANATORY NOTE
初出データ&スタッフリスト

アニメディア 1999年1月号
記事ページ
学習研究社
1998年12月10日発売
STAFFS 作　画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩　色●角本百合子
特　効●谷口久美子

月刊Newtype 1999年1月号
記事ページ
角川書店
1998年12月10日発売
STAFFS 作　画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子

アニメブックス 4
カバー表1
講談社/なかよしメディアブックス54
1999年3月16日発売
STAFFS 作　画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩　色●角本百合子

アニメブックス 5
カバー表1
講談社/なかよしメディアブックス55
1999年7月12日発売
STAFFS 作　画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子

アニメブックス 7
カバー表1
講談社/なかよしメディアブックス57
2000年1月26日発売
STAFFS 作　画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子

下敷き
ムービック
1998年12月発売
STAFFS 作　画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子
背　景●スタジオ風雅

アニメブックス 8
カバー表1
講談社/なかよしメディアブックス58
2000年3月8日発売
STAFFS 作　画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子

アニメブックス 6
カバー表1
講談社/なかよしメディアブックス56
1999年11月2日発売
STAFFS 作　画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩　色●角本百合子

A list of data (media, format, release dates etc.) for all the illustrations in this book, published for the first time and including information on the creators.



CD-ROM さくらとあそぼ！

外装ケース表1
シェルティ，ピーエーピー
1999年4月20日発売
STAFFS　作　画 ●藤田まり子
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子



アニメディア 1999年7月号

付録（ポスター）
学習研究社
1999年6月10日発売
STAFFS　作　画 ●藤田まり子
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●井上英子
特　効 ●谷口久美子



CDシングル Honey

ジャケット表1
ビクター エンタテインメント
1999年5月21日発売
STAFFS　作　画 ●高橋久美子
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子



楽しいバイエル併用 ピアノ・ソロ・アルバム

表紙
ドレミ楽譜出版社
1999年12月30日発売
STAFFS　作　画 ●高橋久美子
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子
特　効 ●谷口久美子



等身大ポスター

ムービック
1999年3月発売
STAFFS　作　画 ●古賀誠
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子
特　効 ●谷口久美子



CDシングル 扉をあけて

ジャケット表1
ビクター エンタテインメント
1999年4月21日発売
STAFFS　作　画 ●高橋久美子
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子



月刊Newtype 1999年5月号

付録（ピンナップ）
角川書店
1999年4月10日発売
STAFFS　作　画 ●古賀誠
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子



月刊アニメージュ 1999年3月号

記事ページ
徳間書店
1999年2月10日発売
STAFFS　作　画 ●鈴木典光
色指定 ●勝沼まどか
彩　色 ●森広智子

EXPLANATORY NOTE
初出データ&スタッフリスト



月刊アニメージュ 1999年4月号

記事ページ
徳間書店
1999年3月10日発売
STAFFS 作 画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子
背 景●スタジオ風雅



月刊アニメージュ 1999年5月号

付録（ポスター）
徳間書店
1999年4月9日発売
STAFFS 作 画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子



カレンダー

11&12月
ムービック
1999年12月発売
STAFFS 作 画●長濱博史
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子
特 効●谷口久美子



アニメディア 1999年4月号

付録（ポスター）
学習研究社
1999年3月10日発売
STAFFS 作 画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子
背 景●スタジオ風雅



アニメディア 1999年5月号

記事ページ
学習研究社
1999年4月9日発売
STAFFS 作 画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子



電撃B-magazine 1999年3月号

記事ページ
メディアワークス
1999年2月10日発売
STAFFS 作 画●鈴木典光
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子



アニメディア 1999年3月号

記事ページ
学習研究社
1999年2月10日発売
STAFFS 作 画●北尾勝
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子



月刊Newtype 1999年3月号

記事ページ
角川書店
1999年2月10日発売
STAFFS 作 画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩 色●森広智子

A list of data (media, format, release dates etc.) for all the illustrations in this book, published for the first time and including information on the creators.



下敷き

ムービック
1999年8月発売
STAFFS 作 画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



下敷き

ムービック
1999年8月発売
STAFFS 作 画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



下敷き

ムービック
1999年8月発売
STAFFS 作 画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



下敷き

ムービック
1999年8月発売
STAFFS 作 画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



ビデオ vol.7 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年3月25日発売
STAFFS 作 画 • 高橋久美子
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



ビデオ vol.6 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年2月25日発売
STAFFS 作 画 • 高橋久美子
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 角本百合子



ビデオ vol.9 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年5月25日発売
STAFFS 作 画 • 高橋久美子
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



ビデオ vol.8 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年4月25日発売
STAFFS 作 画 • 高橋久美子
色指定 • 勝沼まどか
彩 色 • 森広智子



ワンダースワン専用ソフト
さくらとふしぎなクロウカード

外装ケース表1
バンダイ
1999年12月2日発売
STAFFS 作画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子
背景●スタジオ風雅



ゲームボーイ&カラー共通カートリッジ
いつもさくらちゃんといっしょ

外装ケース表1
エム・ティー・オー
1999年5月15日発売
STAFFS 作画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子



コンプリートブック クロウカード編

カバー表1
講談社
1999年7月30日発売
STAFFS 作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子



アニメディア 1999年7月号

記事ページ
学習研究社
1999年6月10日発売
STAFFS 作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子



アニメディア 1999年8月号

記事ページ
学習研究社
1999年7月10日発売
STAFFS 作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●伊藤修子
背景●スタジオ風雅



アニメディア 1999年8月号

表紙
学習研究社
1999年7月10日発売
STAFFS 作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子
背景●スタジオ風雅
特効●谷口久美子



ビデオ vol.11 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年10月25日発売
STAFFS 作画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子



ビデオ vol.10 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年9月25日発売
STAFFS 作画●高橋久美子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子



CDアルバム オリジナルサウンドトラック3

ジャケット表1
ビクター エンタテインメント
1999年6月23日発売
STAFFS 作 画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 森広智子



ビデオ vol.12 レンタル専用版

ジャケット表1
バンダイビジュアル
1999年11月25日発売
STAFFS 作 画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 森広智子



コンプリートブック クロウカード編

付録（ピンナップ）
講談社
1999年7月30日発売
STAFFS 作 画 ● 藤田まり子
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 伊藤修子



月刊Newtype 1999年8月号

記事ページ
角川書店
1999年7月10日発売
STAFFS 作 画 ● 北尾勝
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 伊藤修子



プチシールファイル

バンダイ
1998年5月発売
STAFFS 作 画 ● 大橋幸子
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 森広智子



カレンダー

表紙
ムービック
1999年12月発売
STAFFS 作 画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 森広智子



カードダスマスターズ パート1

バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作 画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 川上善美
背 景 ● 縫部文江



カードダスマスターズ パート1

バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作 画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩 色 ● 川上善美
背 景 ● 縫部文江



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美
背　景 ● 縫部文江



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美
背　景 ● 縫部文江
特　効 ● 前川孝



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美
背　景 ● 縫部文江



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美



カードダスマスターズ パート1
バンダイ
1998年8月発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 川上善美



月刊アニメージュ 1999年9月号
表紙
徳間書店
1999年8月7日発売
STAFFS 作　画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 角本百合子



月刊Newtype 1999年7月号
記事ページ
角川書店
1999年6月10日発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
特　効 ● 谷口久美子

A list of data (media, format, release dates etc.) for all the illustrations in this book, published for the first time and including information on the creators.



アニメディア 1999年6月号

記事ページ
学習研究社
1999年5月10日発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅
特　効 ● 谷口久美子



劇場版 立て看板

STAFFS 作　画 ● 古賀誠
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子



電撃Animation magazine 1999年9月号

表紙
メディアワークス
1999年8月7日発売
STAFFS 作　画 ● 藤田まり子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 鍋島佳寿子



電撃Animation magazine 1999年6月号

表紙
メディアワークス
1999年5月10日発売
STAFFS 作　画 ● 藤田まり子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子



月刊Newtype 1999年8月号

記事ページ
角川書店
1999年7月10日発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● 鈴木典光



アニメディア 1999年8月号

記事ページ
学習研究社
1999年7月10日発売
STAFFS 作　画 ● 井上敦子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅



アニメディア 1999年5月号

記事ページ
学習研究社
1999年4月9日発売
STAFFS 作　画 ● 鈴木典光
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅
特　効 ● 谷口久美子



月刊アニメージュ 1999年7月号

記事ページ
徳間書店
1999年6月10日発売
STAFFS 作　画 ● 井上敦子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅

EXPLANATORY NOTE
初出データ&スタッフリスト



月刊Newtype 1999年6月号

記事ページ
角川書店
1999年5月10日発売
STAFFS 作　画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子
背　景●スタジオ風雅



月刊Newtype 1999年8月号

記事ページ
角川書店
1999年7月10日発売
STAFFS 作　画●井上敦子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子
背　景●スタジオ風雅



AX 1999年6月号

記事ページ
ソニー・マガジンズ
1999年5月10日発売
STAFFS 作　画●古賀誠
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子



アニメディア別冊 メガミマガジン 1999年9月号

付録（ポスター）
学習研究社
1999年7月28日発売
STAFFS 作　画●長谷部敦志
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子



電撃Animation magazine 1999年9月号

記事ページ
メディアワークス
1999年8月7日発売
STAFFS 作　画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子
背　景●スタジオ風雅



月刊Newtype 1999年7月号

記事ページ
角川書店
1999年6月10日発売
STAFFS 作　画●鈴木典光
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子
特　効●谷口久美子



月刊アニメージュ 1999年2月号

記事ページ
徳間書店
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画●君塚勝教
色指定●勝沼まどか
彩　色●角本百合子



AX 1999年2月号

表紙
ソニー・マガジンズ
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画●鈴木典光
色指定●勝沼まどか
彩　色●森広智子

A list of data (media, format, release dates etc.) for all the illustrations in this book, published for the first time and including information on the creators.



電撃B-magazine 1999年2月号
記事ページ
メディアワークス
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画 • 桜井邦彦
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 角本百合子



月刊Newtype 1999年2月号
記事ページ
角川書店
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画 • 藤田まり子
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子



月刊アニメージュ 1999年2月号
表紙
徳間書店
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子
特　効 • 谷口久美子



電撃B-magazine 1999年2月号
表紙
メディアワークス
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 角本百合子



劇場版 コンプリートブック
付録（ピンナップ）
講談社
1999年10月29日発売
STAFFS 作　画 • 北尾勝
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子
背　景 • スタジオ風雅
特　効 • 谷口久美子



AX 1999年2月号
記事ページ
ソニー・マガジンズ
1999年1月9日発売
STAFFS 作　画 • 鈴木典光
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子



月刊Newtype 1999年9月号
記事ページ
角川書店
1999年8月7日発売
STAFFS 作　画 • 井上敦子
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子
背　景 • スタジオ風雅



アニメディア 1999年10月号
記事ページ
学習研究社
1999年9月10日発売
STAFFS 作　画 • 古賀誠
色指定 • 勝沼まどか
彩　色 • 森広智子
背　景 • スタジオ風雅

EXPLANATORY NOTE
初出データ&スタッフリスト



月刊Newtype 1999年9月号

記事ページ
角川書店
1999年8月7日発売
STAFFS　作　画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子



劇場版 宣伝ポスター

STAFFS　作　画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅



劇場版 コンプリートブック

カバー表1
講談社
1999年10月29日発売
STAFFS　作　画 ● 高橋久美子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子



アニメディア 1999年9月号

記事ページ
学習研究社
1999年8月7日発売
STAFFS　作　画 ● 古賀誠
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子
背　景 ● スタジオ風雅



イラストコレクション チェリオ! 2

付録（ピンナップ）　※描き下ろし
講談社
2000年4月21日発売
STAFFS　作　画 ● 藤田まり子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 鍋島佳寿子
背　景 ● スタジオ風雅



イラストコレクション チェリオ! 2

カバー表1　※描き下ろし
講談社
2000年4月21日発売
STAFFS　作　画 ● 藤田まり子
色指定 ● 勝沼まどか
彩　色 ● 森広智子

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA" ILLUSTRATIONS COLLECTION
Cheerio! 2

A list of data (media, format, release dates etc.) for all the illustrations in this book, published for the first time and including information on the creators.

STAFF INTERVIEW

スタッフインタビュー

前作「チェリオ!」に引き続き,メインスタッフをインタビュー。
今回は,高橋久美子さんはじめとする5名の作画監督にお話をうかがいました。

Interviews with the leading artists following the publication of the previous book "CHEERIO!".
We talk to five key animation supervisors, including Kumiko Takahashi.

S T A F F　I N T E R V I E W

北尾 勝

小さな子供の自然な表情や、素直な芝居を大切にしています


イラスト／北尾勝

自分の姪と甥にピッタリの作品に、出会うことができました

――『さくら』にかかわるきっかけは？

「キャラクターデザインと作画監督の高橋（久美子）さんとは『D・N・A²』で、監督の浅香（守生）くんとは『YAWARA！』などで、昔からずっといっしょに仕事をしてまして、その流れで『さくら』をやることになりました。それと、この作品の対象は小学生や幼稚園に通っている子供なんですけど、僕の姪っ子と甥っ子がちょうど物心がついてくる時期で。それで、彼らのためにもやってみようかな、と思ったんです。もう今では、二人とも僕より『さくら』のことをよく知っているんですよ。僕がちょっと間違ったことを言うと、すぐに指摘されて、怒られますから（笑）。作品に対する感想も、彼らからダイレクトに伝わってくるので、真面目に作らないとな、と思いますね。」

――作画監督として、気をつけているのはどんなことでしょう？

「僕はやっぱり、芝居づけですね。キャラクターを一枚絵として見せることにも気をつかいますけど、それプラス、やはり芝居です。さくらには、その年齢に見合った素直な芝居をさせたい。小学生の女の子に大人びた演技はさせたくない、と思っていますので。僕としては、小学生の女の子の目線の高さに自分が降りていって、作品を作るということを大切にしていますね。」

――北尾さんが作画するうえで、得意なのはどんなシーンでしょうか？

「得意というか、好きなのはやっぱり人物芝居ですね。『クロウカード編』の第一話から第三十五話まで流れたオープニングフィルムの、さくらが走るシーンの原画を担当しましたが、あのシーンでも、さくらの〈うれしい〉という気持ちを表現した芝居を心がけました。特にキャラクターたちの表情は、〈リアルに〉じゃなくて〈正確に〉伝えたいですね。それから、嫌いなのは、魔法シーンなどのエフェクト。あまり得意ではないですね。仕事なのでやりますけど（笑）。」

――『さくら』は日常生活に重きを置いた作品ですよね。

「そうですね。浅香監督も、さくらと知世ちゃんのやりとりなどの普通の生活シーンに重きを置いていると思いますし、自分としてもその部分にやりがいを感じます。ただ、難しい部分でもあるんですよ。なにげない普段のシーンでも毎回、同じことをするわけにはいきません。ですから、前はこういうふうにしていたので今度はこう変えてやろうとか、自分の担当ではない話数もチェックしてやっています。」

――『さくら』は、絵の色みも重要な要素だと思うのですが、作画監督としてはどう思われますか？

「色は絵を作るうえで、間違いなく重要な要素のひとつですね。僕も絵を描く前のイメージ固めとして、色彩設計の勝沼（まどか）さんと、色についてかなり話しあったりしました。特に小さい子供が作品を観るときに、色っていうのはイメージとして強く印象に残りますので、大切にしています。」

――北尾さんにとっての『さくら』のイメージカラーは何色でしょうか？

「本当なら、さくらはその名のとおり、うすいピンク色なんでしょうけど、僕はきれいな緑、黄緑ですね。新芽のような緑色のイメージを持って描いています。」

初めて本格的に演出も手がけた、第十五話がとても印象深いです

――いちばん印象に残っているのは何話でしょう？

「第十五話ですね。この話は、演出も浅香さんと共同でやらせてもらったんです。初めて本格的に演出をやったので、強く印象に残っています。ビジュアル以外のストーリー立てとかそういう面も含めて、けっこうワガママを言わせてもらいました（笑）。」

――演出と作画監督の二役をご担当された感想は？

「本来は、演出と作画監督が話しあって、ここはこうしたいね、って言いながら作っていくところを、全部ひとりで自問自答しながらやったので、その点は苦しかったですね。でも、機会があれば今後も演出をやってみたいです。」

――第十五話といえば、ケロちゃんが酔っぱらう楽しいシーンがありましたよね。

「あそこの原画は、作画監督の春日井（浩之）くんが担当してくれたんです。春日井くんの席がちょうど僕の後ろなので、ずっと話しながら作業することができました。あのシーンは、僕も観ていて楽しかったです。かわいい酔っぱらいでしたよね（笑）。」

――最後にファンの方へのメッセージをお願いします。

「僕らの子供のときは、男の子なら『仮面ライダー』、女の子なら魔法少女ものといった、今でも覚えているような作品がありましたよね。『さくら』も、今、観てくださっている小さいお子さんたちの、心のどこかに残ってくれる作品になってくれればいいな、と思っています。」


第15話で，ベロンベロンに酔っぱらうケロ。泣いて笑って，最後はゴミの山で寝てしまう。

PROFILE

北尾　勝（きたお　まさる）兵庫県出身。TV『小公女セーラ』で原画デビュー。以降、TV『ハイスクール！奇面組』、OVA『魔界都市〈新宿〉』、TV『ジャンクボーイ』などの原画を担当。主な作画監督作品は、TV『D・N・A²』、TV『YAWARA！』など。同じ兵庫県出身の浅香監督とは、ボケ（浅香）とツッコミ（北尾）の関係。趣味はテニス、[illegible]。

【作画監督担当作品】
第4話「さくらのくたくた日曜日」※嶋津郁雄氏と共同担当／第15話「さくらとケロの大げんか」※演出も担当／第22話「さくらとやさしいお父さん」／第27話「さくらと思い出の神社」／第32話「さくらとケロと小狼と」／第41話「さくらと小狼と砂の海」／第44話「さくらとケロと不思議な先生」／第47話「さくらと不思議な転校生」／第56話「さくらとケロのお菓子な出会い??」／『劇場版』※作画監督補佐を担当

MASARU KITAO



イラスト／君塚勝

君塚勝教

僕にとって『さくら』の仕事は、アッという間に終わった感じです

いったんは断った、『さくら』の作画監督の仕事

——君塚さんが作画監督を担当されたのは、『クロウカード編』七話、『さくらカード編』四話の合計十一話ですが、かなりたくさんの話数ですよね。

「そうですねぇ。けっこうな本数を担当していますね。でも僕の場合、仕事の内容って終わるとすぐに忘れてしまうので、あんまり覚えていないんです（笑）。」

——君塚さんは、どういったいきさつで『さくら』の作画監督をされることになったのでしょうか？

「じつは、最初に『さくら』の仕事の依頼が来たときは、この作品は私が描ける絵ではないなぁと感じたので、いったんはお断りしたんですよ。でもまぁ、『さくら』のアニメを制作しているマッドハウスの丸山社長に押し切られたかたちで（笑）、始めることになりました。」

——そういういきさつで始められた『さくら』ですが（笑）、実際にお仕事をされてみての感想はいかがですか？

「コミックを原作とする作品をアニメ化するときっていつもそうなんですが、元となる絵というのは、基本的に二次元にデザインされたものですよね。それを立体にして動かすというのは、やはりきついものがあるんですね。それに、『さくら』のキャラクターって、描くのが難しいんですよ。キャラクターデザインの高橋（久美子）さんは、原作のキャラクターをアニメ用にデザインする際、その難しさをクリアして、よく立体感を出して描いていたと思いますね。ただ僕は、その高橋さんのキャラクターデザインがなかなかつかめなくて…。『クロウカード編』から『さくらカード編』まで、一貫してその難しさは変わらなかったですね（笑）。」

——今回、高橋さんにも、作画監督としてお話をうかがっていますが（一一八ページ参照）、高橋さんは、各話が、担当された作画監督さんの絵になっていてもいいのでは、とおっしゃっていましたが…。

「あぁ、基本的に僕もそういうタイプの作画監督ですよ。自分の絵にしてしまうというか、自分の絵でしか描けないんですね。でも、自分の担当した回の出来には、あまり満足していないです（笑）。とにかく最後までキャラクターがつかめないままでした。」

——反省点はいろいろとありますか？

「どうやって一つの話をまとめるかが、なかなかつかめなかったですね。今、思い返してみると、毎回、毎回、自分がノレる要素を作品のなかに探そうとしているうちに終わっちゃった、という印象が強いかなぁ…。そういう意味で言っても、僕にとって『さくら』の仕事は、実際に携わっていた期間は長いんですけど、アッという間に終わってしまった感じがします。」

一見、簡単に描けそうに見えて、じつは難しい、ケロの顔

——君塚さんは、第一話から第三十五話までの本編終了後に放送された人気コーナー『ケロちゃんにおまかせ！』の原画も担当されたそうですね。あの〈ケロちゃ〜ん、チェ〜ック!!〉には、けっこう隠れファンが多いと聞きますけど。

「そうですか？（笑）ケロは、一見、簡単そうですけど、じつは描くのが難しいキャラクターなんですよ。シンプルに丸だけで構成されているんですが、丸は単純なだけに、作画するのが難しいんですね。でも、ケロちゃんについては、思い入れというか、『ケロちゃんにおまかせ！』の原画を描いていることもあって、ほかのキャラクターよりも印象に残っていますよ。」

——ケロちゃん役の久川綾さんは、あのコーナーのアフレコは大変でした、と以前、おっしゃっていました（笑）。

「そうでしょうね。毎回、同じ絵を使っているためフィルムの尺（長さ）は同じなのに、そのつど話す内容が違っているから、セリフの量も違ってきますし。そういえば、長いセリフのときなんかは、すっごい早口になっていましたよね（笑）。」

——ところで、君塚さんは、作画監督の仕事と原画の仕事では、どちらがお好きなんでしょうか？

「う〜ん…。原画は何枚も描くのが面倒くさいからなぁ（笑）。なんかもう、アニメーターの風上にもおけないですね（笑）。」



アクションが少ない分，心温まるシーンが多い第11話。キャラクターの顔も，どこか優しげ。



君塚さんのもっとも印象に残っているキャラクターはケロ。この顔，じつは描くのが難しいとか。

PROFILE

君塚勝教（きみづか　かつのり）
東京都出身。TV『キン肉マン』で動画デビュー。TV『YAWARA！』で初作画監督を務め、以降、TV『あずきちゃん』などの作画監督を担当する。現在はフリー。最近は、インターネットでプライベートのホームページ（アニメーションとは無関係）を製作することに熱中している。

【作画監督担当作品】

第3話『さくらのドキドキ初デート』／第11話『さくらと知世と大きなお家』／第26話『さくらとすてきな先生』／第35話『さくらのすてきなクリスマス』／第36話『さくらと雪の新学期』／第42話『さくらのまっくら学芸会』／第45話『さくらと最後のクロウカード』※牛島勇二氏と共同担当／第48話『さくらとめざめた星の鍵』／第55話『さくらと不思議の国のさくら』／第62話『さくらと不思議なおみくじ』

KATSUNORI KIMIZUKA



イラスト／桜井邦彦

● S T A F F　I N T E R V I E W ●

桜井邦彦

〈アニメとしての空間を作る〉ことにこだわろうと思いました

PROFILE

桜井邦彦（さくらい　くにひこ）東京都出身。テレビ「ほえろブンブン」、映画「ポピーに首ったけ」などで原画を担当。TV「YAWARA!」で作画監督デビュー。以降、OVA「鉄腕バーディ」などの作画監督を務める。現在は、二〇〇一年公開予定の映画「メトロポリス」の作画監督補佐。趣味はスキー、テニス。

見終わったときに、ホッと安心できるような作品を

――桜井さんは、「さくら」以前にも、「X（ダブルエックス）」や劇場版「X」といったCLAMP原作のアニメ作品にかかわっていらっしゃいましたが

「『X』は描きこみが緻密ですよね。じつは、僕は細かい絵はあまり得意ではないんですよ。最初、『さくら』のお話をいただいたとき、『X』のような絵柄の作品だったら、うまく描けないのでは、とも考えまして。でも『さくら』の原作を見てみたら『X』とは作風が違っていたので、これならいけるな、と思いました。自分は、絵一枚の密度を上げて見せるよりも、絵の動きなどで見せていきたいほうなんですね。なので、『さくら』では、〈アニメとしての空間を作る〉ということにこだわろうと思いました。世界観だけでなく、画面の空間のそれらしさや説得力を出したいと。作品を観た子供たちが、友枝町に行きたいと思えるような、感情移入できる世界にしたかったんです。」

――実際に作業してみていかがでしたか？

「やっぱりキャラクターを描くのは難しかったです。原作ものをアニメ化するとき…つまり平面のキャラクターを立体にするときって、成立しない部分があるんですよ。『さくら』の仕事を始めたばかりのときは、そういう部分でだいぶ困りましたね。アニメとしてどれだけうそをついて、どれだけ立体感を出すかというあんばいが、本当に難しかった。初めて作画監督を担当した第八話などは、まだ作品に慣れていないこともあって、ちょっとつらかったです（笑）。」

――桜井さんにとって、「さくら」はどんなイメージの作品でしょうか？

「いわゆる〈魔女っ子もの〉とか、そういうたぐいのものだとは、僕は思っていないですね。どちらかというと地味なホームドラマの部分をちゃんと押さえている作品じゃないでしょうか。キャラクターの生活芝居の部分が多いですし、さくらにしても日常の細かい芝居をキッチリさせることで、かわいさを出しているというか。浅香監督もそういうところを大事にしていますよね。だから、僕の印象としては〈魔女っ子もの〉というよりも、むしろ〈名作もの〉に近いと思うんですけど。じつは、そういった生活芝居というのは場面が地味な分だけ、セルの枚数が多くなって、必然的に手間もかかります。大変ではあるんですが、僕としてはやっていて楽しい部分でもあるんですよ。そして、最終的に仕上がったものが、安心して観れるというか、観終わってホッとするような作りになっていればいいな、という意識で仕事をしていましたね。」

お気に入りキャラクターは、ハッキリした性格の苺鈴

――作画監督を担当された話数で印象に残っているのは？

「第二十話がいちばん好きです。苺鈴が初めて登場する話なんですけど、淡々とした地味な部分と、動きのある部分のメリハリがついていて、その落差がとても楽しめるんです。ハデハデなアクションもそれなりに時間をかけて描けましたし。器械体操のシーンも楽しいですよ。自分としても、いちばんおもしろく観ることができたと思います。」



苺鈴がさくらのクラスに転入してくる第20話。最初から強気の苺鈴に、さくらもタジタジ…。

――桜井さんの好きなキャラクターは？

「やっぱり、苺鈴ですね。彼女は、こんなときはどういう行動や表情をするだろう、というのがわかりやすいですよね。怒るときは怒る、笑うときは笑うとハッキリしているので、すごく描きやすいし、絵も（キャラクター原案に）似せやすいんです。それがさくらだと、いまひとつわからないときがあって、悩んでしまうことがあるんですよね。そういうときは、原作を何度も読んで、さくらの気持ちを考えながら描くんですけど…。また、苺鈴みたいなタイプの子は見てても楽しいですよね（笑）。ほかのキャラクターは、わりかし、おとなしい人が多いですから、物語のアクセントとしても貴重な存在かなと。」

――昨年夏に公開された「劇場版」でも、作画監督をなさってますね。

「『劇場版』では、魔導士が登場する水のシーンの処理などが大変でしたね。でも、『劇場版』の作画監督を担当したことで、『さくら』という作品についてだいぶわかったこともあったんですよ。それを作品に還元したくて、もう一度、作画監督をやらせてくれ、とゴネまして（笑）。結局、第五十一話を担当させていただきました。」

――「さくら」では、どういう点に注意して仕事をされていましたか？

「今、観てくれている小さい子供たちが、大きくなってもう一度『さくら』を観たとき、彼らから〈なんだ子供だましじゃん！〉って言われるような作品にはしたくないと思っていました。小さなころの思い出って大事なものですから。作品によっては、〈子供のころの、あの熱くなった気持ちはいったいなんだったんだろう？〉っていうようなものもありますよね（笑）。だから、そう思われないように、誠意を持って作っていました。」

【作画監督担当作品】

第 8話『さくらのライバル、登場！』
第13話『さくらとゾウの力くらべ』
第20話『さくらとたたかう転校生』
第23話『さくらと知世とすてきな歌』
第31話『さくらと名前のない本』
第51話『さくらと大きなぬいぐるみ』
『劇場版』

KUNIHIKO SAKURAI

長谷部敦志

いろいろと考えさせられた、初の作画監督作品『さくら』



イラスト／荒木哲郎

PROFILE

長谷部敦志（はせべ　あつし）
愛媛県出身。TV『宇宙の騎士テッカマンブレード』、TV『幽☆遊☆白書』、TV『NINKU 忍空』、映画『ブラック・ジャック』、OVA『シャーマニックプリンセス』などの原画を担当。『さくら』で初めて作画監督を務める。最近のお薦め映画は『ファイト・クラブ』。感想は「やっぱ、殴ってなんぼだろう！（笑）」

クオリティーの高さにびっくり！手に負えるかな、と思いました。

―『さくら』に参加することになった経緯を教えてください。

「演出の高柳滋仁さん（第四十話、第四十六話を担当）とは、かけだしのころからのつきあいで、スタジオぴえろ製作の『幽☆遊☆白書』や『忍空』などの作品でごいっしょしていたこともあって、その流れで声をかけてもらったんです。最初は作画監督としてではなく、原画を担当する予定だったんですが。」

―作画監督を担当することに決まったときの感想は？

「僕がかかわったのは『クロウカード編』の後半（第四十話）からだったので、この作品の作画監督を担当することが決まったとき、CLAMPさんの原作よりも先にアニメのほうを観たんですけど…。そのときの正直な感想は、大変そうだなぁ、っていうことですね。たとえば、第一話や第三話などは、テレビアニメ（のクオリティー）じゃない、と僕は感じたんですよ。これはスゴイな、自分の手に負えるかなぁと。画面が作りこまれていて、作り手が楽をしていない。普通は楽して手を抜くところも、全然、抜いていないんです（笑）。そういう印象があって、あのクオリティーを要求されたらどうしよう、と思いましたね。それでいちばん最初に、僕にはムリです、と言った覚えがあります（笑）。」

―実際に作業にかかわってみていかがでしたか？

「作画監督として仕事をするのは『さくら』がほぼ初めてで、第四十話が初の作画監督作なんですが、演出担当が高柳さんだったので、あぁ、いつもどおりだなって（笑）。じつは第四十話のスタッフのなかには、『幽☆遊☆白書』をいっしょにやっていた原画の人たちがけっこういまして、そのおかげで新しい仕事をしているっていう印象はそれほどなく、スタートからスンナリ入れましたね。このときは、製作時間もそれほどタイトではありませんでしたし（笑）。」

―長谷部さんから見た『さくら』という作品の印象は？

「最初は、いわゆる〈魔法少女もの〉だと考えていたんですね。〈魔法少女もの〉って、子供のころに観てはいましたけど、仕事で手がけたことはなかったので、いったいどんなものなんだろう、って気持ちでした。でも、実際に製作に携わってみると、予想していたのとは違っていて、『さくら』はやっぱりCLAMPさんの作品だなぁ、と。なんだか、日常生活の描写が淡々としているんですよね。それは、制作会社であるマッドハウスさんや、監督の浅香（守生）さんのカラーでもあるんだと思いますけど。」

もっとハードな展開の画面を考えていた第四十六話。

―『クロウカード編』の最終話である第四十六話を担当されていますが？

「重要なクライマックスの回なので、いいんスかオレで!?　って一応、確認はしたんですよ（笑）。」

―第四十六話は、『クロウカード編』の全エピソードのなかでも、けっこうハードなタッチですよね。さくらと月の会話やアクションシーンがかなりシリアスですし…。

「『さくら』ファンの方のホームページを見ていると、さくらって、〈妹にしたいキャラクター〉とか〈守ってあげたいキャラクター〉の第一位になっているんですよ。僕の性格からすると、そういうのってじつはあまり好きじゃないんですね（笑）。さくらはもう少し苦労してもいいんじゃないか、という気持ちもあって、第四十六話では試練を経験していただこうと（笑）。演出の高柳さんも僕と同じタイプみたいで。まぁ、お互い『幽☆遊☆白書』をやっていた人間ですから（笑）。」

―愛のムチでしょうか？（笑）

「う〜ん、どうなのかな（笑）。原画さんの描いてきた絵がソフトタッチだったりすると、違う方向に描き直したりして（笑）。最初はもっとハードな展開の画面も考えていたんですけど、『さくら』の世界観を考えると、さすがにさくらの顔が汚れる程度に落ちつきましたね。」

―最後に、ファンの方々にメッセージをお願いします。

「メッセージとはちょっと違うんですけど、作画監督として、作品を観た方々からダイレクトな反応をいただいたっていうのは、この『さくら』が初めてだったので、いろいろと考えさせられましたね。幼稚園に行っている親戚の子供が観てくれたのもうれしかったですし。それから、『劇場版』の作画監督補佐も担当したんですが、劇場では、キャラクターに声をかけてくれる子供たちもいて。やっぱり、アニメっていうのは、そうじゃないといけないですね！（笑）」



大きな試練を課せられた第46話のさくら。
身体的にも精神的にも、かなりつらい目に遭う。

【作画監督担当作品】
第40話『さくらと夢の中のさくら』
第46話『さくらと最後の審判』
第53話『さくらとパニック自転車』
第60話『さくらと大切なお友達』
『劇場版』※作画監督補佐を担当

● STAFF INTERVIEW ●

ATSUSHI HASEBE



イラスト／高橋久美子

●STAFF INTERVIEW●

高橋久美子

作品が完成するまでの過程がすごく大事！みんなで一生懸命やってよかったね、という気持ちが最後に残ればいいですね。

いろんな人とやりとりするのが、作画監督の楽しいところ。

——高橋さんはキャラクターデザインとともに作画監督も担当されていますが、一つの作品で二つの仕事をするというのはいかがでしたか？

「キャラクターデザインって、結局は個人作業なんです。だから『さくら』の場合は、原作のＣＬＡＭＰさんなり、浅香（守生）監督なりの要求に、わたし個人がどれだけ応えられるかどうか、というそれだけなんですね。でも、作画監督という仕事の場合は、いろんな人とコミュニケーションをはかりながら作業をしていくので、大変な部分もありますけど、そのぶん充実感があるというか、やっていてすごく楽しいですね。キャラクターデザインのように一人でコツコツとやる仕事は、わたしの性にはあまり合っていないようで（笑）。」

——大勢の人とワイワイしながらする仕事のほうが好きなんでしょうか？

「そうですね。わたしはそういう仕事のほうが好きです。仕事のどの部分に価値を見いだすかは、人それぞれ違うと思うんですけど、わたしは作品が完成するまでの過程が、すごく大事なんです。もちろん作品の出来の善し悪しは大切ですが、たとえ時間がなくてあまり満足できるものができなかったにしろ、みんなで一生懸命やってよかったよね、っていう気持ちが最後に残ればいいかな、って。だから、スタッフのみんなには、嫌な思いはあまりさせたくないんです。まぁ、そういう考えって、ちょっと甘いのかもしれませんが（笑）。」

——優しい作画監督さんですね。

「う〜ん、でもわたしみたいな考え方がいいかっていうとまた別問題で、もっといい作品を作りたいっていう考え方のスタッフも、もちろんたくさんいるんです。そういう人たちからみたら、わたしのような考え方は、きっと食い足りないだろうなぁと。でも、わたしは周りにいる人たちに押されて、日々、なんとかやってるっていう感じなんですよ。本当に、仕事をしている時間が楽しければ、それでＯＫかな、って思いますね（笑）。」

演出の薮下さんが原画を描いた、ケロのエンディングが大好き！

——高橋さんは、クオリティーが高いと言われている第一話の作画監督を担当されていますが。

「第一話は、（セルの）枚数がものすごく多いから、そういうふうに言われることが多いんですけど、わたし自身はクオリティーが高いと言われても、正直、全然ピンとこないんですよね。自分としては、時間が計画的に使われていただろうか、という思いのほうが大きいです。ただ、かかわってくれた人がたくさんいるので、そういう人たちに対して、そんな言い方をしてはいけないな、とは思いますね。」

——同じく、作画監督を担当された第十八話に関してはいかがでしょうか？

「演出の薮下（昌二）さんは、この第十八話が初演出作品だったんです。そんな薮下さんと知りあいになれて、たくさんやりとりをして、そして気持ちを一つにして仕事ができたっていうのが、わたしにとってはいちばんの収穫でしたね。それから、薮下さんには、第一話から第三十五話まで流れたエンディングの原画を描いていただいたんですよ。」

——ケロちゃんが軽快に走っていて、本編の絵とは微妙にムードが違う…。

「そうそう、あれです。あのケロちゃんのエンディング。わたしはあれ、もう大好きなんです！（笑）あの原画に関しては、わたしはいっさい手を加えてないですから、全部、薮下さんの絵なんですよ。本当にいいですよねぇ、あのケロちゃん！」

——昨年夏に公開された『劇場版』の作画監督作業はいかがでしたか？

「『劇場版』は、けっこうスケジュールがタイトで、ちょっとシンドかったです。仕事はつらくて当たり前なんだから、それはそれでいいんですけど、せっかく『さくら』みたいな〈ホエ〜〉とした作品をやるのなら、現場の雰囲気がなごやかなほうがいいですよね。それに、現場の雰囲気って、作品にも微妙に影響するような気がしますし（笑）。」

各作画監督の個性が出たほうが、楽しいと思います。

——高橋さんがデザインしたキャラクターを、いろいろな方が作画されるわけですが、それについてはどう思われますか？

「これにもいろいろな考え方があると思います。中学生のころ、テレビアニメを観ていたら、回によって絵が違っていることに気づいたんです。それ以降、そういった絵の違いをけっこう楽しみにしながらテレビを観ていたんですね。今日の絵はかわいい、とか、今日の絵はカッコいいぞ、って思いながら。それと、回によって担当の作画監督さんが違うっていうことに、高校生のころ気づいて。わたしとしては、『さくら』もそれぞれの作画監督さんの個性が出ていて


クオリティーが高いと評判の第1話。さくらがクロウカードを見つける場面はとてもミステリアス。

もOKというか、むしろそのほうが楽しいんじゃないかな、と思っているんです。もちろん、作品としての許容範囲はあると思いますけど、その範囲内だったら、全然問題ないと。そういった絵の違いを楽しんでいる人もたぶんいるでしょうし。」

——各作画監督さんの個性が出ているほうが、キャラクターデザインをした立場としてはうれしいと？

「そうですね。というか、自分がなかなか本編に参加できない欲求不満みたいなものがあって。それで、よけいにそう感じるんだと思うんです。だって、いろいろなタッチの絵があるほうが、なんだか楽しそうな作品に見えるじゃないですか。スタッフみんな楽しそうにやっているのが伝わってくるようですよね（笑）。」

——高橋さんとしては、もっと本編にかかわりたかったという思いがあるみたいですね。

「う〜ん。そうなんですけど…でもキャラクターデザインをやりながら、本編もやっている方っていうのは、ほかにもたくさんいらっしゃるんで、それはもう自分の問題で、ただ単にわたしの手が遅いとか、体力がないとか。やろうと思えばできたんだろうな、根性なしだな、って思います（笑）。本当は、作画監督ではなく、原画をやりたかったんです、責任が軽いから（笑）。それに、原画はけっこう好きに絵を描けますからね。キャラクターデザインの場合は、みんなが気に入るような、OKが出る絵を描かなくてはならないんで、そこに自分の気持ちがなかなか入れられないんですよ。最初に、原作の絵に似せなくてはならない、という条件がありますし。でも、せっかくキャラクターデザインをする以上は、自分の色を少し入れるわけですよ。だから、その自分のタッチが出た部分を否定されたりすると、けっこうメゲちゃったりしますね。自分の存在を否定されたような気がして。それじゃあ、わたしがやらなくても…って（笑）。それでよけいに、作画監督さんの方々には、好きに、のびのび描いてほしいなって思うのかもしれないですね（笑）。」

いちばん好きなキャラクターは、優しくてけなげな知世ちゃん。

——『さくら』は、最近のテレビアニメとしては、全七十話というかなり長い作品ですよね。

「そんなにやっていたのかぁ、って感じですね。ただわたしの場合、ポスター用や、ビデオ、CDのジャケット用などの描き下ろしイラスト、いわゆる〈版権物〉を描く作業がとても多くて…。そのせいであまり本編にかかわれなかったので、〈『さくら』をやりました〉ってなかなか言いきれないところがあるんです。ただ、足かけ四年もやっていると、キャラ（設定）表を描くのは、慣れたというか、違和感はなくなりましたね。じつは、第六十一話で本編のレイアウト修正を担当した際、キャラクターの顔を描いたんですけど、どうしても自分の絵になってしまって、自分で描いた絵が、キャラ表と似てないんです（笑）。自分で作ったキャラ表なのに、なんだか違うんですよね（笑）。だから、第六十一話のフィルムを観るたびに、あぁ、キャラ表とちょっと違う…作画監督さんに悪いことしたなぁ、って思っちゃうんですよ（笑）。作画監督さんは何人もいらっしゃいますけど、もしかするとわたしの絵がいちばんキャラ表に似ていないかもしれない（笑）。ファンの方がやっている『さくら』関連のホームページの掲示板にも、〈いつもと絵が違いますね〉って書かれていたりして（笑）。」

——では、高橋さんが、『さくら』のキャラクターのなかでいちばん気に入っているのは誰でしょうか？

「以前はケロちゃんだったんです。描きやすいですから（笑）。でも今は、知世ちゃんですね。知世ちゃんって、さくらちゃんをずっと見守ってきて、すごく優しくて、まるでお母さんみたいじゃないですか。さくらは幸せ者だな、ってつくづく思いますね。スタッフの男の子たちのなかには、知世ちゃんのことを、〈ストーカーだ〉とか〈変わってる〉とかって言うヤツもいたりするんですけど、わたしとしては、おまえら、それはわかってないゾ！　って（笑）。」

——本編でも、自分が好きになってもらうより、自分の好きな人が幸せになってくれるほうがいい、っていう知世のセリフが出てきますよね。

「無償の愛ですね。いいですよね、なんかけなげで。」

——それでは最後に、ファンの方へのメッセージを。

「わたしたちもがんばりました。みなさんもがんばって、最後まで観てくださいね（笑）。」


第1話から第35話までのエンディング。
シンプルな構成ながらも、コミカルな味が出ている。


さくらの快活さ、かわいらしさを存分に表している、第1話から第35話までのオープニング。


高橋さんのお気に入りキャラクター・知世。
彼女の性格がよくわかる、第1話の初登場シーン。

●STAFF INTERVIEW●

【作画監督担当作品】
オープニング（第1話〜第35話）
エンディング（第1話〜第35話）
オープニング（第47話〜第70話）
第１話『さくらと不思議な魔法の本』
第18話『さくらと雪兎と夏祭り』
『劇場版』

KUMIKO TAKAHASHI

PROFILE

高橋久美子（たかはし　くみこ）
埼玉県生まれ。アニメーション制作会社サンライズに入社。映画『機動戦士ガンダム　めぐりあい宇宙編』、映画『クラッシャージョウ』で動画を、TV『ジャイアントゴーグ』で原画を手がける。映画『うる星やつら　いつだってマイ・ダーリン』で初のキャラクターデザインを担当。ハムスター飼育に代わって、最近、プレーリードッグを飼い始めたが、けっこう乱暴者でよく噛まれているそう。

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION

Cheerio!2

アニメーション カードキャプターさくら イラストコレクション　チェリオ！2

2000年4月21日　第1刷発行

定価はカバーに表示してあります。

原　作：CLAMP（クランプ）
発行人：野間佐和子
発行所：株式会社 講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
編集部 03-5395-3480
雑誌第2販売部 03-5395-3605
印刷所：図書印刷株式会社
製本所：株式会社国宝社

講談社

落丁本，乱丁本は小社雑誌業務部（03-5395-3603）にお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。なお，この本についてのお問い合わせは，「なかよし」編集部あてにお願いいたします。

編集，構成●株式会社ビーエービースタジオトリア　須子博方，藤本敦，坂入宗雄，日高真理

インタビュー●株式会社ビーエービースタジオトリア　遠坂道明

装丁，デザイン●株式会社ビーエービースタジオトリア　菊地等，隈元尚子

カバーイラスト作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●森広智子

ピンナップイラスト作画●藤田まり子
色指定●勝沼まどか
彩色●鍋島佳寿子
背景●スタジオ風雅

協力●マッドハウス

Printed in JAPAN

ISBN4-06-324529-2（な）

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION

Cheerio! 2

Now - thanks to overwhelming demand for the "CHEERIO!" collection of illustrations from the animation "CARDCAPTOR SAKURA" - a new book is here! Over 80 illustrations carefully selected from the treasure trove of work by the artists involved in the TV Animation "CARDCAPTOR SAKURA" and the Animated Movie "CARDCAPTOR SAKURA". Includes a new special pin-up on the cover page, and the latest interviews with five of the key animation supervisors on the back cover.



ISBN4-06-324529-2

C0071 ¥1800E (0)



講談社

定価：本体1800円（税別）

ANIMATION "CARDCAPTOR SAKURA"
ILLUSTRATIONS COLLECTION

Cheerio! 2